空港整備地区南側貨物取扱施設
埋蔵文化財調査報告書Ⅰ

―芝山町大里馬土手・柳谷遺跡―

平成17年3月

成田国際空港株式会社

財団法人　千葉県文化財センター

空港整備地区南側貨物取扱施設
埋蔵文化財調査報告書Ⅰ

―芝山町大里馬土手・柳谷遺跡―

序　文

財団法人千葉県文化財センターは，埋蔵文化財の調査研究，文化財保護思想の涵養と普及などを主な目的として昭和49年に設立され，以来，数多くの遺跡の発掘調査を実施し，その成果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

このたび，千葉県文化財センター調査報告書第501集として，成田国際空港株式会社の整備地区南側貨物取扱施設造成工事に伴って実施した芝山町大里馬土手・柳谷遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

この調査では，縄文時代の炉穴や土抗，古墳時代の住居跡，近世の馬土手が検出されるなど，この地域の歴史を知る上で貴重な成果が得られております。

刊行に当たり，この報告書が学術資料として，また郷土の歴史を理解するための資料として広く活用されることを願っております。

終わりに，調査に際し御指導，御協力をいただきました地元の方々を初めとする関係の皆様や関係機関，また，発掘から整理までご苦労をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成17年３月24日

財団法人千葉県文化財センター

理事長　清　水　新　次

凡　例

1　本書は，成田国際空港株式会社（旧新東京国際空港公団）による整備貨物地区南側貨物取扱施設造成事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査報告書である。

2　本書に収録した遺跡は，千葉県山武郡芝山町大里字柳谷32－1他所在の大里馬土手（遺跡コード409－039）・千葉県山武郡芝山町大里字次木57－1他所在の柳谷遺跡（遺跡　コード409－013）である。

3　発掘調査から報告書作成に至る業務は，成田国際空港株式会社（旧新東京国際空港公団）の委託を受け，財団法人千葉県文化財センターが実施した。

4　発掘調査と整理作業の実施期間及び担当者は本文中に記述した。

5　発掘調査から報告書の刊行に至るまで，千葉県教育庁教育振興部文化財課，成田国際空港株式会社（旧新東京国際空港公団），芝山町教育委員会の御指導，御協力を得た。

6　本書で使用した地形図は，下記のとおりである。

第1図　国土地理院発行　1/25,000地形図「新東京国際空港」・（N1－54－19－10－1）
「多古」（N1－54－19－10－2）

第20図　芝山町発行　1/2,500　都市計画図（「5」・「6」・「9」「10」）
（平成15年3月（財）千葉県文化財センター調査報告書台455集　主要地方道成田松尾線XVI－芝山町大里所在馬土手・宝馬遺跡93－77地点－

第3図　大里所在馬土手周辺地形図に加筆した。）

7　基準点測量及び地形測量は日本側地系に基づいて行われた。

8　本書で使用した図面の方位はすべて座標北である。

9　周辺地形航空写真は，京葉測量株式会社による平成15年撮影1/10,000のものを使用した。

本文目次

第１章　はじめに ……1
　第１節　調査の経緯 ……1
　第２節　遺跡の位置と周辺遺跡 ……1
第２章　大里馬土手及び柳谷遺跡の調査 ……5
　第１節　大里馬土手の調査 ……5
　　１　調査区及び発掘区の設定 ……5
　　２　調査の概要 ……5
　　３　遺構 ……5
　　馬土手
　第２節　柳谷遺跡の調査……15
　　１　調査区及び発掘区の設定……15
　　２　調査の概要……16
　　３　遺構……16
　　炉穴及び土坑
　　住居跡
　　方形周溝状遺構
　　猪落とし遺構
　　４　その他の遺物……27
第３章　まとめ……30

挿図目次

第１図　主な周辺遺跡 (1/25,000) ……4
第２図　確認トレンチ・発掘区配置図 (1/1,000) ……6
第３図　大里馬土手及び柳谷遺跡
　　遺構配置図 (1/500) ……7
第４図　大里馬土手第１トレンチ……10
第５図　大里馬土手第２トレンチ・第３トレンチ
　　……11
第６図　大里馬土手第４トレンチ……13
第７図　大里馬土手第５トレンチ……15
第８図　柳谷遺跡炉穴及び土坑……17
第９図　柳谷遺跡土坑……18
第10図　柳谷遺跡１号住居跡……19
第11図　柳谷遺跡１号住居跡出土遺物（１）(1/3)
　　……20
第12図　柳谷遺跡１号住居跡出土遺物（２）(1/3)
　　……21
第13図　柳谷遺跡１号住居跡出土遺物（３）(1/3)
　　……23
第14図　柳谷遺跡方形周溝状遺構 (1/80) ……24
第15図　柳谷遺跡猪落とし遺構（１）(1/80) ……25
第16図　柳谷遺跡猪落とし遺構（２）(1/80) ……26
第17図　柳谷遺跡出土遺物（石器）(1/2) ……27

第18図　柳谷遺跡出土遺物（土器）(1/3) ……28
第19図　柳谷遺跡出土遺物（銭貨）(1/2) ……28
第20図　大里馬土手周辺地形図 (1/2,500) ……31

表　目　次

第１表　主な周辺遺跡 ……3

図版目次

図版１　航空写真（平成15年撮影：1/10,000）
図版２　柳谷遺跡確認トレンチ２Ｔ・３Ｔ・４Ｔ
図版３　柳谷遺跡確認トレンチ10Ｔ・11Ｔ，柳谷遺跡（馬土手南部分）調査前近景
図版４　大里馬土手近景，馬土手全景，馬土手第１トレンチ東側セクション
図版５　馬土手第２トレンチ東側セクション，第３トレンチ東側セクション
図版６　馬土手第３トレンチ北側野馬堀，第３トレンチ東側セクション，第４トレンチ東側セクション
図版７　馬土手第４トレンチ北側野馬堀，第４トレンチ東側セクション，第５トレンチ東側セクション
図版８　馬土手第５トレンチ東側セクション，１号炉穴，２号炉穴，１号土坑，３号土坑，４号土坑
図版９　柳谷遺跡１号住居跡，１号住居跡カマド
図版10　柳谷遺跡１号方形周溝状遺構，２号方形周溝状遺構，１号～５号猪落とし遺構
図版11　柳谷遺跡１号住居跡出土遺物（１）
図版12　柳谷遺跡１号住居跡出土遺物（２）
図版13　柳谷遺跡１号住居跡出土遺物（３）
図版14　柳谷遺跡１号住居跡出土遺物（１），包含層出土遺物（１）
図版15　包含層出土遺物（２）

第１章　はじめに

第１節　調査の経緯

成田国際空港株式会社（旧新東京国際空港公団）は，山武郡芝山町字大里地先において整備地区南側貨物取扱施設用地の造成工事事業を計画し，千葉県教育委員会に遺跡の有無を照会したところ当該地先が大里馬土手及び柳谷遺跡の一部に含まれることが確認されたため，千葉県教育委員会と協議の結果，事業地区内の埋蔵文化財の取扱いについて記録保存の処置を講ずることとなり，財団法人千葉県文化財センターが発掘調査を実施することとなった。

調査は，次の組織と担当者により実施された。

平成15年４月７日～平成15年４月30日（大里馬土手）

東部調査事務所長　折原　繁，研究員　大内千年

平成15年４月７日～平成15年８月29日（柳谷遺跡）

東部調査事務所長　折原　繁，副所長兼主席研究員　池田大助

また，整理作業は以下の期間及び組織と担当者により実施された。

平成15年１月５日～平成15年３月31日

東部調査事務所長　折原　繁，副所長兼主席研究員　池田大助

平成16年４月５日～平成16年８月31日

東部調査事務所長　鈴木定明，主席研究員兼室長　石倉亮治

第２節　遺跡の位置と周辺遺跡

大里馬土手及び柳谷遺跡は，成田国際空港南側の標高41m前後の下総台地北部に位置する。これらの遺跡のある台地周辺は，太平洋に南下する木戸川及び高谷川，印旛沼に北上する根木名川の各水系の分水界となっている。また，大里馬土手は成田松尾線（通称はにわ道）によって寸断されており（はにわ道部分については昭和60年度に調査実施），この道路の東側部分については平成14年に大里所在馬土手として（財）千葉県文化財センターにより調査され報告されている（１）。

成田国際空港周辺では，昭和50年代から空港建設に関わる埋蔵文化財調査が実施されてきており，これまでに多くの遺跡が調査されてきた。第１図及び第１表は，これまで成田国際空港関連の埋蔵文化財調査として調査された遺跡の位置と分布の状況を示している。

大里馬土手・柳谷遺跡のある台地の西側には，調査時には既に削平されグランド跡地となっていた窪地を挟み，平成14年から平成15年に調査された成田市東三里塚岩之台遺跡（13）や芝山町井森戸遺跡（14）がある。岩之台遺跡と井森戸遺跡の境界付近には成田市と芝山町の行政区界が複雑に重なることから，発掘調査と調査報告書の作成にあたっては遺構・遺物の関連性に特に配慮を要した。平成14年には空港南部工業団地造成と旧296号線代替用地の道路建設に際し，岩之台遺跡及び井森戸遺跡のそれぞれ一部が発掘調査された。

空港南部工業団地造成用地内では井森戸遺跡の一部が発掘調査され，旧石器時代の石器集中が２か所で

第1図　主な周辺遺跡 (1/25,000)

見られ，縄文時代早期の包含層及び陥穴・土坑，弥生時代の土坑，古墳時代の竪穴住居跡及び掘立柱建物跡，中・近世の溝状遺構が確認された。

旧296号線代替用地内では井森戸遺跡と岩之台遺跡が発掘調査され，古墳時代の竪穴住居跡や中近世の溝状遺構が確認された。

また，平成15年には整備貨物地区南側貨物取扱施設用地の造成に伴い，再び岩之台遺跡及び井森戸遺跡のそれぞれ一部が発掘調査された。

第１表　主な周辺遺跡

No	遺跡名	所在地	時代（時期）	水系	立地・現状	文献
1	大里馬土手・薄谷遺跡	山武郡芝山町大里字薄谷32－１他	縄文，古墳，近世	高谷川	台地上	1
2	古込遺跡（No.14，No.55，No.56）	成田市古込字古込	須恵器（早），奈良・平安	尾羽根川	台地上	2
3	香山新田中新山遺跡（No.10）	成田市香山新田字中新山	縄文	高谷川	台地上	3
4	香山新田中横堀遺跡（No.7）	成田市香山新田中横堀101－２他	縄文	高谷川	台地上	4
5	香山新田金沢台遺跡（No.15）	成田市香山新田字金沢台	縄文（早・前・中）	高谷川	台地上	5
6	香山新田金仏面遺跡（No.6）	成田市香山新田字金仏面	縄文	高谷川	台地上	6
7	木の根拓美遺跡（No.4）	成田市木の根字拓美192他	旧石器，縄文（早）	高谷川	台地上	7
8	木の根東台遺跡（No.5）	成田市木の根字東台217他	旧石器，縄文（早）	高谷川	台地上	8
9	三里塚御料牧場遺跡	成田市三里塚字御料牧場１－２他	旧石器，縄文（早・前）	高谷川	台地上	9
10	東三里塚古野台遺跡（No.3，No.51，No.52）	成田市東三里塚字古野台	旧石器，縄文（早・中）	高谷川	台地上	10
11	岩山中袋遺跡（No.2）	山武郡芝山町岩山字中袋他	旧石器，縄文（早・前・中）	高谷川	台地上	11
12	岩山中袋遺跡（No.2）	山武郡芝山町岩山字中袋他	縄文	高谷川	台地上	12
13	東三里塚若之台遺跡	成田市東三里塚字若之台	旧石器，縄文，古墳	高谷川	台地上	13
14	井森戸遺跡	山武郡芝山町岩山字井森戸133番－１他	旧石器，縄文（早・前・中・後），古墳	高谷川	台地上	14
15	板止岡・尼ヶ谷遺跡	山武郡芝山町大里字板志岡・尼ヶ谷162他	縄文（早）	高谷川	台地上	15
16	上宿遺跡	山武郡芝山町岩山字上宿1570他	縄文	高谷川	台地上	16
17	古宿遺跡	山武郡芝山町岩山字古宿1452他	縄文（後），奈良・平安	高谷川	台地上	17
18	南三里塚熊神遺跡	成田市南三里塚字熊神256他	縄文（早・中），古墳	高谷川	台地上	18
19	神ノ台遺跡（１）	山武郡芝山町朝倉字神ノ台	縄文（早），古墳，奈良・平安	高谷川	台地上	19
20	神ノ台遺跡（２）	山武郡芝山町朝倉字神ノ台	縄文（早），古墳，奈良・平安	高谷川	台地上	20

文献

1　2003主要地方道成田松尾線XIV
2　1971三里塚・1983新東京国際空港埋蔵文化財調査報告書Ⅱ
3　1984新東京国際空港埋蔵文化財調査報告書Ⅳ・1993新東京国際空港埋蔵文化財調査報告書Ⅶ
4　1984新東京国際空港埋蔵文化財調査報告書Ⅳ・1993新東京国際空港埋蔵文化財調査報告書Ⅶ
5　2004建設センター・保全事務所用地内埋蔵文化財調査報告書
6　（未調査）
7　1981木の根
8　1981木の根
9　1988御料牧場遺跡　麻薬犬訓練所予定地内埋蔵文化財調査報告書
10　1981木の根
11　1986新東京国際空港埋蔵文化財調査報告書Ⅴ・1997土木保守管理センター等埋蔵文化財調査報告書
12　1986新東京国際空港埋蔵文化財調査報告書Ⅴ・2003旧296号線代替用地内埋蔵文化財調査報告書
13　（整理作業中）
14　1995主要地方道成田松尾線Ⅳ・2003旧296号線代替用地内埋蔵文化財調査報告書
　　2004空港南部工業団地埋蔵文化財調査報告書３
15　1992芝山町内遺跡発掘調査報告書
16　1985主要地方道成田松尾線Ⅳ・2004空港南部工業団地埋蔵文化財調査報告書３
17　1985千葉県埋蔵文化財抄報（昭和60年度）　古宿・上谷遺跡
18　1981千葉県埋蔵文化財抄報（昭和56年度）　南三里塚祖神遺跡
19　2003主要地方道成田松尾線XIV
20　2003主要地方道成田松尾線XIV

高谷川水系の最も奥まった台地には香山新田新山（No.10）遺跡（3），香山新田中横堀（No.7）遺跡（4），金沢台（No.15）遺跡（5），香山新田念仏面（No.8）遺跡（6），木の根拓美（No.6）遺跡（7），木の根東台（No.5）遺跡（8）がある。

昭和53年に調査された香山新田中横堀（No.7）遺跡は，旧石器時代のナイフ形石器・槍先形尖頭器，縄文時代撚糸文期の住居跡や陥穴状土坑群が検出された。また，昭和54年・平成元年に調査された香山新田新山（No.10）遺跡では，旧石器時代では礫群・ナイフ形石器・槍先形尖頭器，縄文時代では条痕文系土器群・陥穴状土坑群を検出している。

金沢台（No.15）遺跡は平成12年から平成13年にかけて調査され，旧石器から中・近世に至る時代の遺構が確認された。旧石器時代では7か所の石器集中域が確認され，安山岩・珪質頁岩・流紋岩を加工したナイフ形石器，珪質頁岩製の角錐状石器，チャート製の彫刻刀形石器，黒曜石製の掻器などが検出されている。縄文時代では2か所の縄文時代早期（撚糸文系土器・沈線文系土器）の包含層や3か所の縄文時代前期（羽状縄文系土器・貝殻腹縁文系土器）の包含層が確認されたほか，谷津を取り囲む様に7か所の陥穴状遺構が検出された。金沢台遺跡の縄文時代の遺跡の特徴は，台地中央部に西側から入り込んだ谷津を取り囲むように遺構と遺物の包含層が展開していることである（5）。

香山新田念仏面（No.8）遺跡は，香山新田新山遺跡の南の谷津を挟んだ台地に所在するが未調査である。

木の根東台（No.5）遺跡は昭和51年に調査され，旧石器時代のナイフ形石器や槍先形尖頭器が出土した。この遺跡と隣接する台地上にある木の根拓美（No.6）遺跡は昭和52年に調査が行われ，旧石器時代のナイフ形石器や縄文時代の撚糸文土器群と陥穴状土坑群が検出されている。

成田国際空港は房総半島北東部の分水界付近に位置するため，隣接する遺跡でも水系を異にする状況にある。古込（No.14・No.55・No.56）遺跡は比較的近い距離にありながら，北西に流れる尾羽根川水系に面する台地上に立地する。古込遺跡は昭和46年・53年に調査され，縄文時代早期の条痕文系土器群や黒曜石製石器群が検出された（2）。

空港A滑走路南端付近には，三里塚御料牧場遺跡（9），東三里塚吉野台（No.3，No.51，No.52）遺跡（10），岩山中袋（No.2）遺跡（11）・（12）がある。

三里塚御料牧場遺跡と東三里塚吉野台遺跡はともに旧石器時代から縄文時代早期・前期にかけての遺跡である。また，岩山中袋遺跡の（11）地点は土木保守管理センター建設に伴って発掘調査され，旧石器時代から縄文時代早期～中期の遺跡であることが判明した。岩山中袋遺跡の（12）地点は旧296号代替用地内の道路建設工事に伴って発掘調査され，縄文時代の陥穴1基が検出された。

その他の周辺遺跡では，本遺跡の東方0.75kmには縄文早期の坂志岡・尼ヶ谷遺跡（15）があり，本遺跡の西方2.5kmには縄文時代早期及び中期と古墳時代の遺跡である南三里塚遺跡（18）がある。

本遺跡東側に沿って走る通称はにわ道沿いには，上宿遺跡（16），古宿遺跡（17），沖ノ台Ⅰ遺跡（19），沖ノ台Ⅱ遺跡（20）がある。

上宿遺跡は縄文時代の陥穴や土坑が検出されており，古宿遺跡は縄文時代後期及び奈良・平安時代の遺跡である。また，沖ノ台Ⅰ遺跡は縄文時代早期及び中期の遺物と古墳時代の鍛冶工房跡・竪穴住居跡・土坑が検出されている。沖ノ台Ⅱ遺跡は縄文時代中期の遺物と古墳時代の粘土採掘坑・炭窯・土坑・排滓場が検出された。このことから沖ノ台Ⅰ遺跡と沖ノ台Ⅱ遺跡は相互に関連する遺跡であり，東日本の古墳時代の製鉄技術を考える上で貴重な資料を提供する遺跡であることが判明している。

第２章　大里馬土手及び柳谷遺跡の調査

第１節　大里馬土手の調査

１　調査区及び発掘区の設定

大里馬土手は芝山町大里字柳谷32－１他に所在する。大里馬土手は柳谷遺跡北端に位置しており，整備貨物地区南側貨物取扱施設エリアの進入路建設工事及び入退場ゲート設置工事に伴い柳谷遺跡とは別事業として調査委託されたが，調査の便宜上両事業地に共通する調査区を設定し，発掘調査を実施した。

大里馬土手の調査区の設定は，公共座標を基準として50m×50mの方眼グリッドを設定し，北から１，２，３，…，西からA，B，C，…とし，1A，2B，3C，…と呼称した。また，各方眼グリッド内を北西端から南東端にかけて先頭の00グリッドを第１段第１列とし10列ごとに次段の西端に移り，00～99の10段10列100分割小グリッドを設定し，遺構の検出や遺物の取り上げの際の基準とした。

２　調査の概要

大里馬土手は，旧296号線東三里塚坂志岡交差点付近の通称『はにわ道』を挟んで東西に位置し，平成14年度には（財）千葉県文化財センターにより東側部分の馬土手が調査されている[1]。

大里馬土手の調査は，対象面積1,400㎡のうち馬土手周辺の100㎡について調査を実施した。調査の方法は幅２mのトレンチにより馬土手を寸断する方向に第１トレンチから第５トレンチの５か所設置し，馬土手の土盛りの状況や馬土手に伴う溝及び上層遺構の検出を試みた。

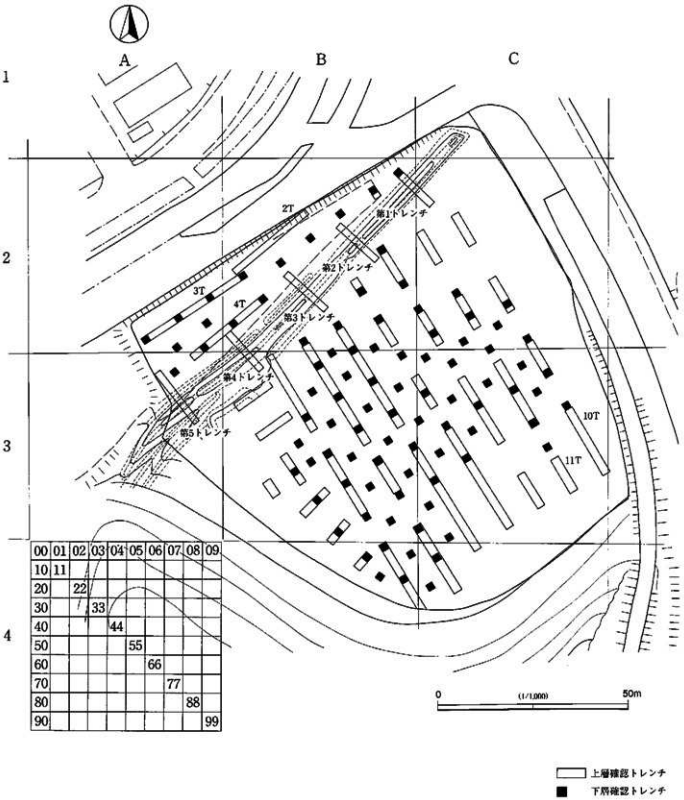
その結果，馬土手に並行する野馬堀と柵列状の杭列の痕跡を検出し，馬土手が谷津に下る付近において崩落ととしと思われる陥穴状の遺構が５基連続して検出された。

３　遺構

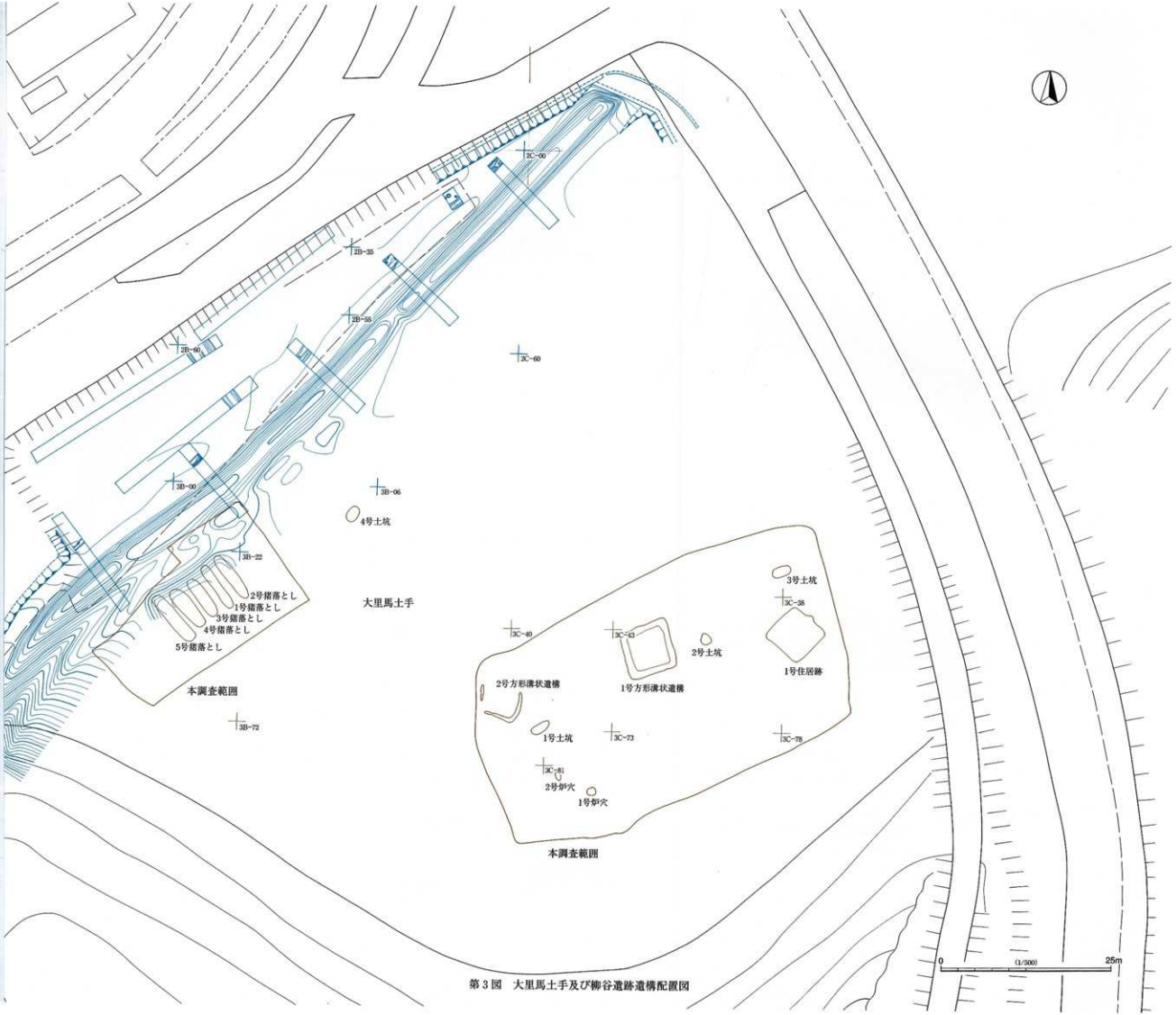
馬土手（第４図・第５図・第６図・第７図）

馬土手は，断面が緩やかな山状で両裾付近には馬土手と並行して野馬堀が掘り込まれている。現況の規模は長さ約130m，高さ約1.8m，幅４m～５mを計り，馬土手の両側を走る野馬堀の規模は北側で長さ約127m，深さ0.8m，幅約1.6m，南側で長さ約134m，深さ約0.5m，幅約1.5mとなっている。野馬堀はいずれも馬土手西端部分が谷津に向かって下る斜面の途中で馬土手とともに自然消滅する。

第４図第１トレンチによって切断された馬土手の切り通し断面の観察によれば，１層は黒褐色の表土（現耕作土）の堆積層である。２層はやや明るい色調の黒褐色土でしまりを欠き軟質である。３層は暗褐色土でしまりを欠き軟質である。ローム粒を少量含む。４層は黒色土で硬くしまりローム粒を少量含む。５層は暗褐色土でやや硬めにしまり，ローム粒を微量含む。６層は暗褐色土でやや硬めにしまり，ロームを５％程度含む。７層は暗褐色土でしまりを欠きやや軟質である。８層は黒褐色土で硬くしまり，ローム粒を多量に含む。９層は暗褐色土でやや硬めにしまりロームを20％程度含む。黒色土をブロック状に含む。10層は暗褐色土でしまりを欠きやや軟質である。11層はやや明るい色調の黒褐色土で，しまりを欠き軟質である。12層はやや明るい色調の暗褐色土で，硬くしまりローム粒を多量に含む。13層はやや明るい色調の黒褐色土で，しまりを欠き軟質である。ローム粒を少量含む。14層は暗褐色土でしまりを欠き軟質である。ローム粒を少量含む。15層は黒褐色土で硬くしまり，ロームブロック及びローム粒を少量含む。16層



第２図　確認トレンチ・発掘区配置図

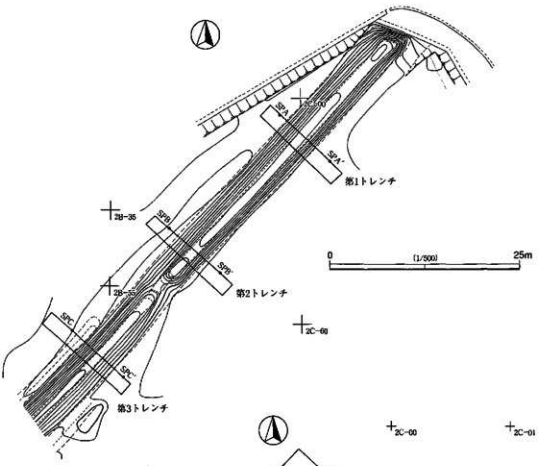


第３図　大里馬土手及び柳谷遺跡遺構配置図

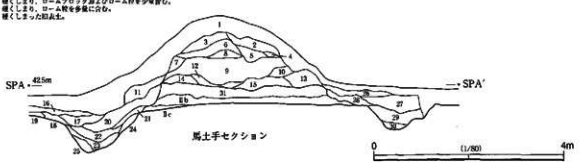
は黒褐色土で硬くしまり，ローム粒を微量含む。17層は黒褐色土でやや硬めにしまり，ローム粒を多量に含む。18層は暗褐色土で硬くしまり，ローム粒を多量に含む。19層は褐色土で硬くしまり，ロームを20%程度含む。20層は黒褐色土でしまりを欠き，軟質である。ローム粒を少量含む。21層は黒褐色土で硬くしまり，ローム粒を少量含む。22層は黒褐色土でやや硬めにしまり，ローム粒を少量含む。23層は黒褐色土でやや硬めにしまり，ロームブロックを含む。24層は褐色土はやや硬めにしまり，ロームを20%程度含む。25層は褐色土で硬くしまり，ロームブロックを主体とする。26層は黒褐色土で硬くしまった硬化面。27層は黒褐色土で硬くしまり，ローム粒・炭化物を微量含む。28層は黒褐色土で硬くしまり，ロームを少量含む。29層は黒褐色土で硬くしまり，ロームブロック及びローム粒を少量含む。30層は黒褐色土で硬くしまり，ローム粒を多量に含む。31層は黒褐色土で硬くしまった旧表土。

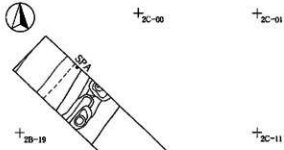
第5図第2トレンチによって切断された馬土手の切り通し断面の観察によれば，1層は黒褐色の表土（耕作土）の堆積層である。2層は暗褐色土でしまりを欠き軟質である。ローム粒を少量含む。3層はやや明るい色調の黒褐色土で，しまりを欠き軟質である。ローム粒を少量含む。4層は褐色土でやや硬めにしまり，ロームブロックを含む。5層は暗褐色土でしまりを欠き，軟質である。ロームを20%以上含み，黒色土をブロック状に含む。6層は暗褐色土で硬くしまり，ローム粒を少量含む。7層は黒褐色土で硬くしまり，ロームブロックを少量含む。8層は暗褐色土で硬くしまり，ローム粒を多量に含む。9層は黒褐色土で硬くしまり，ローム粒を少量含む。10層は黒褐色土で硬くしまり，ローム粒を少量含む。11層はやや明るい色調の黒褐色土で，硬くしまりローム粒を微量含む。12層は暗褐色土で硬くしまり，ローム粒を少量含む。13層は黒褐色土で硬くしまり，ローム粒をやや多く含む。微量の焼土粒を含む。14層は黒色土で硬くしまっている。15層は黒褐色土でやや硬めにしまり，ローム粒を多量に含む。16層は黒褐色土でやや硬めにしまり，ローム粒を少量含む。17層は黒褐色土でやや硬めにしまっている。18層はやや明るい色調の黒褐色土で，やや硬めにしまりローム粒を多量に含む。19層は暗褐色土でやや硬めにしまり，ローム粒を多量に含む。20層は褐色土でしまりを欠き軟質である。ローム粒を多量に含む。21層はやや明るい色調の黒褐色土で，やや硬めにしまりローム粒を多量に含む。22層は黒褐色土でやや硬めにしまり，ローム粒を多量に含む。23層は褐色土でやや硬めにしまり，ロームを20%含む。24層はやや明るい色調の黒褐色土で，硬くしまりローム粒を少量含む。25層は黒褐色土でやや硬めにしまり，ローム粒を多量に含む。ロームブロックを少量含む。26層は黒色土でやや硬めにしまり，ローム粒を多量に含む。ロームブロックを少量含む。27層は黒色土でやや硬めにしまり，ローム粒を多量に含む。

第5図第3トレンチによって切断された馬土手の切り通し断面の観察によれば，1は黒褐色の表土（耕作土）の堆積層。2層はやや明るい色調の黒褐色土で，しまりを欠き軟質である。3層は暗褐色土でやや硬めにしまり，ロームを10%程度含む。4層は黒褐色土で硬くしまり，ローム粒を微量含む。5層は暗褐色土でやや硬めにしまり，ロームを15%程度含む。6層は黒色土で硬くしまり，ローム粒を多量に含む。7層は暗褐色土で硬くしまり，ローム粒を多量に含む。8層は黒褐色土でやや硬めにしまり，オーム粒を多量に含む。9層は暗褐色土でやや硬めにしまり，ロームを25%程度含む。黒色土をブロック状に含む。10層は褐色土で硬くしまり，ローム粒を多量に含む。11層はやや明るい色調の黒褐色土で，しまりを欠き軟質である。12層は黒褐色土でやや硬めにしまり，ローム粒を微量含む。13層は黒色土でやや硬めにしまり，ロームを５%程度含む。14層はやや明るい色調の黒褐色土で，硬くしまりローム粒を少量含む。15層はやや明るい色調の黒褐色土で，やや硬くしまりローム粒を少量含む。16層はやや明るい色調の暗褐色土

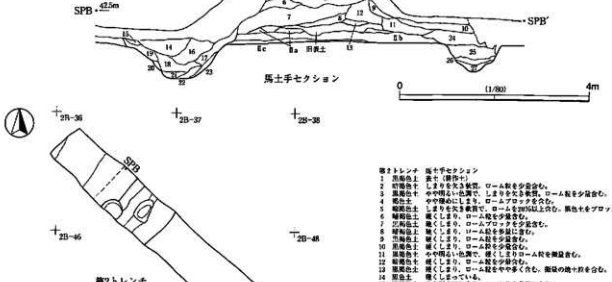


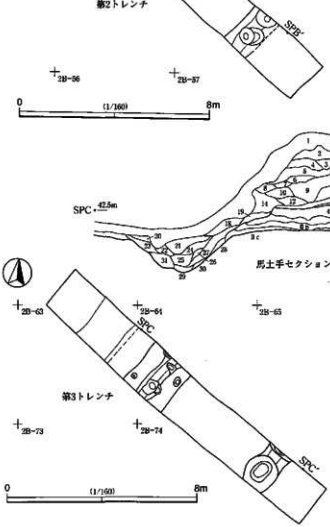
第1トレンチ　馬土手セクション
1　黒褐色土　丸石（調査中）
2　黒褐色土　やや明るい色調でしまりを欠き軟質。
3　暗褐色土　しまりを欠き軟質。ローム粒を少量含む。
4　暗色土　暗くしまり、ローム粒を少量含む。
5　暗褐色土　やや明めにしまり、ローム粒は微量を含む。
6　暗褐色土　やや明めにしまり、ロームを5%程度含む。
7　暗褐色土　しまりを欠きやや軟質。
8　黒褐色土　暗くしまり、ローム粒を多量に含む。
9　暗褐色土　やや明めにしまり、ローム粒を20%程度含む。焦色土をブロック状に含む。
10　暗褐色土　しまりを欠きやや軟質。
11　黒褐色土　やや明るい色調でしまりを欠き軟質。
12　暗褐色土　やや明るい色調で暗くしまり、ローム粒を多量に含む。
13　黒褐色土　やや明るい色調でしまりを欠き軟質。ローム粒を少量含む。
14　暗褐色土　しまりを欠き軟質。ローム粒を少量含む。
15　黒褐色土　暗くしまり、ロームブロック及びローム粒を少量含む。
16　黒色土　暗くしまり、ローム粒を微量含む。
17　黒褐色土　やや明めにしまり、ローム粒を多量に含む。
18　暗褐色土　暗くしまり、ローム粒を多量に含む。
19　褐色土　暗くしまり、ロームを部所に程度含む。
20　黒褐色土　しまりを欠き軟質。ローム粒を少量含む。
21　黒褐色土　暗くしまり、ローム粒を少量含む。
22　黒褐色土　やや明めにしまり、ローム粒を少量含む。
23　黒褐色土　やや明めにしまり、ロームブロックを含む。
24　褐色土　やや明めにしまり、ロームを20%に程度含む。
25　褐色土　暗くしまり、ロームブロックを主体とする。
26　黒褐色土　暗くしまった状態。
27　黒褐色土　暗くしまり、ロームブロ・炭化物を微量含む。
28　黒褐色土　暗くしまり、ロームを少量含む。
29　黒褐色土　暗くしまり、ロームブロック及びローム粒を少量含む。
30　黒褐色土　暗くしまり、ローム粒を多量に含む。
31　黒褐色土　暗くしまった黒土。





第4図　大里馬土手第1トレンチ





第2トレンチ　馬土手セクション

1 黒褐色土　表土（耕作土）
2 黒色土　やや明るい色調で、ローム粒を少量含む。
3 黒褐色土　やや明るい色調で、しまりを欠き軟質、ローム粒を多量含む。
4 褐色土　やや硬めにしまり、ロームブロックを含む。
5 暗褐色土　しまりを欠き軟質で、ローム粒を10%以上含む。黒色土をブロック状に含む。
6 暗褐色土　硬くしまり、ローム粒を少量含む。
7 茶褐色土　硬くしまり、ローム・ブロックを少量含む。
8 暗褐色土　硬くしまり、ローム粒を多量に含む。
9 黒褐色土　硬くしまり、ローム粒を少量含む。
10 黒褐色土　硬くしまり、ローム粒を少量含む。
11 黒褐色土　やや明るい色調で、硬くしまりローム粒を微量含む。
12 暗褐色土　硬くしまり、ローム粒を少量含む。
13 黒褐色土　硬くしまり、ローム粒をやや多く含む。微量の焼土粒を含む。
14 黒色土　硬くしまっている。
15 黒褐色土　やや硬めにしまり、ローム粒を多量に含む。
16 茶褐色土　やや硬めにしまり、ローム粒を少量含む。
17 茶褐色土　やや硬めにしまっている。
18 黒褐色土　やや明るい色調で、やや硬めにしまりローム粒を多量に含む。
19 暗褐色土　やや明るい色調で、ローム粒を多量に含む。
20 暗色土　しまりを欠き軟質、ローム粒を多量に含む。
21 黒褐色土　やや明るい色調で、やや硬めにしまりローム粒を多量に含む。
22 黒褐色土　やや硬めにしまりローム粒を多量に含む。
23 褐色土　やや硬めにしまり、ローム土ブロックを含む。
24 黒褐色土　やや明るい色調で、硬くしまりローム粒を少量含む。
25 黒色土　やや硬めにしまり、ローム粒を多量に含む。ローム・ブロックを少量含む。
26 黒色土　やや硬めにしまり、ローム粒を多量に含む。ローム・ブロックを少量含む。
27 黒色土　やや硬めにしまり、ローム粒を多量に含む。

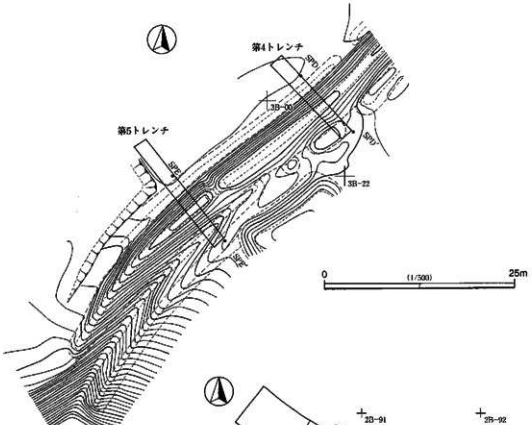
第3トレンチ　馬土手セクション

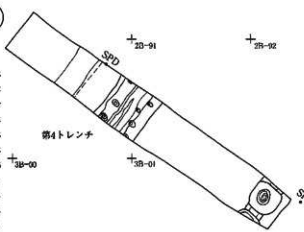
1 黒褐色土　表土（耕作土）
2 黒褐色土　やや明るい色調で、しまりを欠き軟質。
3 暗褐色土　やや硬めにしまり、ローム土を10%程度含む。
4 黒褐色土　硬くしまり、ローム粒を微量含む。
5 暗褐色土　やや硬めにしまり、ローム土を15%程度含む。
6 黒色土　硬くしまり、ローム粒を多量に含む。
7 褐色土　硬くしまり、ローム粒を多量に含む。
8 黒褐色土　やや硬めにしまり、ローム粒を少量に含む。
9 褐色土　やや硬めにしまり、ローム土を22%程度含む。黒色土をブロック状に含む。
10 暗褐色土　硬くしまり、ローム粒を少量含む。
11 茶褐色土　やや明るい色調で、しまりを欠き軟質。
12 茶褐色土　やや硬めにしまり、ローム粒を微量含む。
13 黒色土　やや硬めにしまり、ローム土を5%程度含む。
14 黒褐色土　やや明るい色調で、硬くしまり、ローム粒を少量含む。
15 黒褐色土　やや明るい色調で、やや硬くしまり、ローム粒を少量含む。
16 暗褐色土　やや明るい色調で、硬くしまり、ローム粒を多量に含む。
17 暗褐色土　しまりを欠き軟質。
18 暗褐色土　しまりを欠き軟質、ローム粒を微量含む。
19 黒褐色土　やや硬めにしまり、ローム土を10%程度含む。
20 暗褐色土　やや硬めにしまり、ローム土を少量含む。
21 黒褐色土　やや硬めにしまり、ローム土を少量含む。
22 黒褐色土　しまりを欠き軟質、ローム粒を少量に含む。
23 暗褐色土　しまりを欠き軟質、ローム土を20%程度含む。
24 黒褐色土　やや硬めにしまり、ローム粒を少量含む。
25 暗褐色土　やや硬めにしまり、ローム土を多量に含む。
26 黒褐色土　やや硬めにしまり、ローム粒を多量に含む。
27 黒色土　硬くしまり、ローム土を多量に含む。
28 黒褐色土　硬くしまり、ローム粒を多量に含む。
29 黒褐色土　やや明るい色調で、硬くしまり、ローム粒を少量含む。
30 暗褐色土　やや硬めにしまり、ローム粒を多量に含む。
31 黒色土　硬くしまり、ローム土を多量に含む。
32 黒褐色土　しまりを欠き軟質。
33 黒褐色土　硬くしまっている。
34 黒褐色土　硬くしまっている。
35 暗褐色土　やや硬めにしまり、ローム粒を微量含む。
36 黒色土　硬くしまった、天水火山灰を主体とする。
37 黒色土　硬くしまり、ローム粒を多量に含む。
38 黒褐色土　硬くしまり、ローム粒を多量に含む。
39 黒褐色土　やや明るい色調で、硬くしまり、ローム粒を少量含む。
40 暗褐色土　やや硬めにしまり、ローム粒を多量に含む。
41 褐色土　硬くしまり、ローム土を30%程度含む。
42 黒色土　硬くしまり、ローム粒を多量に含む。
43 黒色土　旧表土

第5図　大里馬土手第2トレンチ・第3トレンチ

で硬くしまり，ローム粒を多量に含む。17層は暗褐色土でしまりを欠き軟質である。18層は暗褐色土でしまりを欠き軟質である。ローム粒を微量含む。19層は黒褐色土で硬めにしまり，ロームを10%程度含む。20層は暗褐色土で硬めにしまり，ロームを少量含む。21層は黒褐色土で硬めにしまり，ロームを少量含む。21層は黒褐色土で硬めにしまり，ロームを少量含む。22層は黒褐色土でしまりを欠き軟質である。ローム粒を多量に含む。23層は暗褐色土でしまりを欠き軟質である。ロームを20%程度含む。24層は黒褐色土でやや硬めにしまり，ローム粒を少量含む。25層は暗褐色土でやや硬めにしまり，ローム粒を多量に含む。26層は褐色土でやや硬めにしまり，ローム粒を多量に含む。27層は黒色土でやや硬めにしまり，ローム粒を多量に含む。28層は褐色土でしまりを欠き軟質である。ローム主体で黒褐色土やロームブロックを含む。29層は黒褐色土でやや硬めにしまり，ローム粒を少量含む。30層は褐色土でやや硬めにしまり，ローム主体で暗褐色土を含む。31層は黒褐色土でしまりを欠きやや軟質である。ローム粒を多量に含む。32層は黒褐色土でしまりを欠き軟質である。33層は黒褐色土で硬くしまっている。34層は黒褐色土で硬くしまった硬化面。35層は暗褐色土で硬くしまっている。36層は黒褐色土でやや硬めにしまり，ローム粒を微量含む。37層は黒色土で硬くしまっており，宝永火山灰を主体とする。38層は黒褐色土で硬くしまり，ローム粒を多量に含む。39層はやや明るい色調の黒褐色土で，硬くしまりローム粒を少量含む。40層は暗褐色土でやや硬めにしまり，ローム粒を多量に含む。41層は褐色土で硬くしまり，ロームを20%程度含む。42層は黒色土で硬くしまり，ローム粒を多量に含む。43層は黒色土で旧表土である。

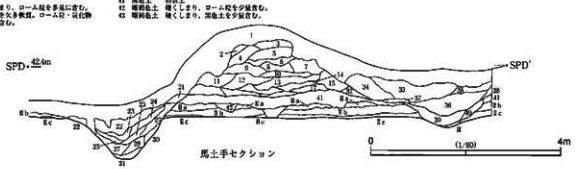
第6図第4トレンチによって切断された馬土手の切り通し断面の観察によれば，1層は黒褐色の表土（耕作土）の堆積層。2層は黒色土でやや硬めにしまり，焼土粒を微量含む。3層は黒褐色土黒褐色土でしまりを欠き軟質である。ローム粒を少量含む。4層は黒褐色土でしまりを欠き軟質である。ローム粒を多量に含む。5層は暗褐色土で硬くしまり，ロームを20%程度含む。6層は黒色土で硬くしまり，暗褐色土をブロック状に含む。7層は黒褐色土でしまりを欠き軟質である。ローム粒を少量含む。8層は黒褐色土でやや硬めにしまり，ローム粒を少量含む。9層は黒色土で硬くしまり，ローム粒を多量に含む。10層は黒色土で硬くしまり，ローム粒を少量含む。11層は黒褐色土でやや硬めにしまり，ロームブロックを多量に含む。12層は褐色土でやや硬めにしまり，ロームと黒色土を含む。13層はやや明るい色調の暗褐色土でやや硬くしまり，ローム粒・ロームブロックを多量に含む。14層はやや明るい色調の黒褐色土で硬くしまり，ローム粒を多量に含む。15層は暗褐色土で硬くしまり，ローム粒を多量に含む。16層は黒色土で硬くしまり，ローム粒を少量含む。17層は暗褐色土で硬くしまり，ロームを10%程度含む。18層は暗褐色土で硬くしまりローム粒を多量に含む。19層はやや明るい色調の黒褐色土でやや硬くしまり，ローム粒を微量含む。20層は黒褐色土でしまりを欠き軟質である。ローム粒を少量含む。21層は黒色土でしまりを欠き軟質である。ローム粒を多量に含む。22層は黒褐色土で硬くしまり，ローム粒を多量に含む。23層は黒褐色土でしまりを欠き軟質である。ローム粒・炭化物を少量含む。24層は黒褐色土でやや硬めにしまり，ローム粒を多量に含む。25層は暗褐色土でしまりを欠き軟質である。ローム粒を多量に含む。26層は黒褐色土でしまりを欠き軟質である。ローム粒を少量含む。27層は黒色土でしまりを欠き軟質である。ローム粒を多量に含む。28層は暗褐色土でやや硬めにしまり，ローム粒を多量に含む。29層は黒色土でやや硬めにしまり，ローム粒を多量に含む。30層は褐色土でやや硬めにしまり，ロームを主体に黒色土を少量含む。31層はやや明るい色調の暗褐色土でやや硬くしまり，ローム粒を多量に含む。32層は黒色土でしまりを欠き軟質である。ローム粒を多量に含む。33層は暗褐色土でやや硬めにしまり，ローム粒を多量に含む。34層





第4トレンチ　馬土手セクション

1 黒褐色土　表土（畑作土）
2 黒色土　やや暗めにしまり、軽土粒を微量含む。
3 黒褐色土　しまりを欠き軟質、ローム粒を少量含む。
4 灰褐色土　しまりを欠き軟質、ローム粒を多量に含む。
5 暗褐色土　硬くしまり、ローム土が所間密なし。
6 黒色土　硬くしまり、暗褐色土をブロック状に含む。
7 黒褐色土　しまりを欠き軟質、ローム粒を少量含む。
8 黒褐色土　やや暗めにしまり、ローム粒を少量含む。
9 黒色土　硬くしまり、ローム粒を多量に含む。
10 黒色土　硬くしまり、ローム粒を少量含む。
11 黒褐色土　やや硬めにしまり、ロームブロックを多量に含む。
12 褐色土　やや暗めにしまり、ロームと黒色土を含む。
13 暗黒色土　やや明るい色調で、やや硬くしまり、ローム粒・ロームブロックを多量に含む。
14 灰褐色土　やや明るい色調で、硬くしまり、ローム粒を多量に含む。
15 暗褐色土　硬くしまり、ローム粒を多量に含む。
16 黒色土　硬くしまり、ローム粒を少量含む。
17 暗褐色土　硬くしまり、ローム粒が所間密なし。
18 暗褐色土　硬くしまり、ローム粒を多量に含む。
19 黒褐色土　やや明るい色調で、やや硬くしまり、ローム粒を微量含む。
20 黒褐色土　しまりを欠き軟質、ローム粒を少量含む。
21 黒色土　しまりを欠き軟質、ローム粒を多量に含む。
22 黒褐色土　硬くしまり、ローム粒を多量に含む。
23 黒褐色土　しまりを欠き軟質、ローム・炭化物を少量含む。
24 黒褐色土　やや硬めにしまり、ローム粒を多量に含む。
25 暗褐色土　しまりを欠き軟質、ローム粒を多量に含む。
26 黒褐色土　しまりを欠き軟質、ローム粒を少量含む。
27 黒色土　しまりを欠き軟質、ローム粒を多量に含む。
28 暗褐色土　やや硬めにしまり、ローム粒を多量に含む。
29 黒色土　やや硬めにしまり、ローム粒を多量に含む。
30 褐色土　やや硬めにしまり、ロームを主体に黒色土を少量含む。
31 暗褐色土　やや明るい色調で、やや硬くしまり、ローム粒を多量に含む。
32 黒色土　しまりを欠き軟質、ローム粒を多量に含む。
33 暗褐色土　やや硬めにしまり、ローム粒・ロームブロックを多量に含む。
34 暗褐色土　やや硬めにしまり、ローム粒・ロームブロックを多量に含む。
35 褐色土　やや暗めにしまり、ロームを主体に暗褐色土を少量含む。
36 暗褐色土　しまりを欠き軟質、ローム粒を多量に含む。
37 褐色土　硬くしまり、ロームブロック主体で暗褐色土を含む。
38 黒色土　やや硬めにしまり、ロームブロックを多量に含む。
39 暗褐色土　やや硬めにしまり、黒色セプロック・ロームブロックを多量に含む。
40 黒褐色土　硬くしまり、ローム粒を少量含む。
41 黒褐色土　粘質土
42 暗褐色土　硬くしまり、ローム粒を少量含む。
43 暗褐色土　硬くしまり、黒色土を少量含む。



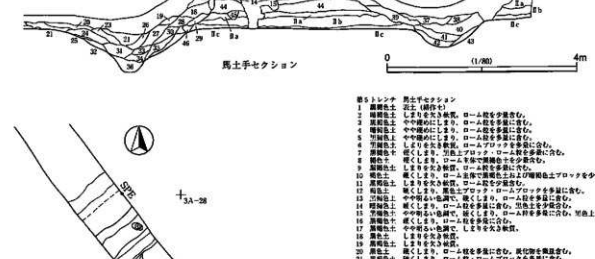
馬土手セクション

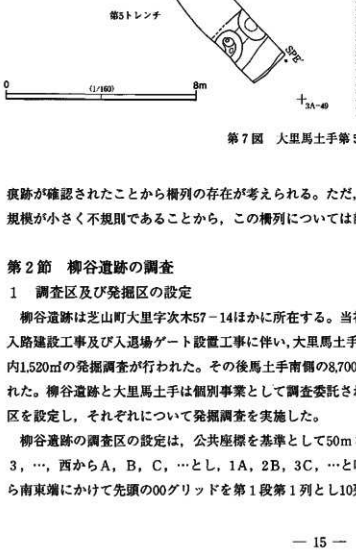
第6図　大里馬土手第4トレンチ

は暗褐色土でやや硬めにしまり，ローム粒・ロームブロックを多量に含む。35層は褐色土でやや硬めにしまり，ローム主体に暗褐色土を少量含む。36層は暗褐色土でしまりを欠き軟質である。ローム粒を多量に含む。37層は褐色土で硬くしまり，ロームブロック主体で暗褐色土を含む。38層は黒色土でやや硬めにしまり，ロームブロックを多量に含む。39層は暗褐色土でやや硬めにしまり，黒色土ブロック・ロームブロックを多量に含む。40層は黒褐色土で硬くしまり，ローム粒を少量含む。41層は黒色土で旧表土である。42層は暗褐色土で硬くしまり，ローム粒を少量含む。43層は暗褐色土で硬くしまり，黒色土を少量含む。

第7図第5トレンチによって切断された馬土手の切り通し断面の観察によれば，1層は黒褐色の表土（耕作土）の堆積層である。2層は暗褐色土でしまりを欠き軟質である。ローム粒を少量含む。3層は黒褐色土でやや硬めにしまり，ローム粒を多量に含む。4層は暗褐色土でやや硬めにしまり，ローム粒を多量に含む。5層は黒褐色土でやや硬めにしまり，ローム粒を多量に含む。6層は黒褐色土でしまりを欠き軟質である。ロームブロックを多量に含む。7層は黒褐色土で硬くしまり，黒色土ブロック・ローム粒を多量に含む。8層は褐色土で硬くしまり，ローム主体で黒褐色土を少量含む。9層は黒褐色土でしまりを欠き軟質である。ローム粒を多量に含む。10層は褐色土で硬くしまり，ローム主体で黒褐色土及び暗褐色土ブロックを少量含む。11層は黒褐色土でしまりを欠き軟質である。ローム粒を少量含む。12層は褐色土で硬くしまり，黒色土ブロック・ロームブロックを多量に含む。13層はやや明るい色調の黒褐色土で硬くしまり，ローム粒を多量に含む。14層は暗褐色土で硬くしまり，ローム粒を多量に含む。黒色土を少量含む。15層はやや明るい色調の黒褐色土で硬くしまり，ローム粒を多量に含む。黒色土を少量含む。16層は黒褐色土で硬くしまり，ローム粒を多量に含む。17層はやや明るい色調の黒褐色土でしまりを欠き軟質である。18層は黒色土でしまりを欠き軟質である。19層は黒褐色土でしまりを欠き軟質である。20層は黒色土で硬くしまり，ローム粒を多量に含む。炭化物を微量含む。21層は黒褐色土で硬くしまり，ローム粒・ロームブロックを多量に含む。22層は黒褐色土で硬くしまり，ローム粒を多量に含む。炭化物を少量含む。23層は黒色土で硬くしまり，ローム粒を多量に含む。ロームブロックを少量含む。24層は暗褐色土で硬くしまり，ローム粒を多量に含む。25層は黒褐色土で硬くしまり，ローム粒を多量に含む。26層は黒褐色土でやや硬めにしまっている。27層は黒褐色土で硬くしまり，ローム粒を多量に含む。28層は黒褐色土でやや硬めにしまり，ローム粒を少量含む。29層は褐色土でしまりを欠き軟質である。ロームを25%程度含む。30層は黒褐色土で硬くしまり，ローム粒を多量に含む。31層はやや明るい色調の黒褐色土でやや硬くしまり，ローム粒を多量に含む。32層は褐色土でやや硬めにしまり，ローム主体で黒褐色土を少量含む。33層は黒褐色土で硬くしまり，ローム粒を少量含む。34層は黒褐色土でやや硬めにしまり，ローム粒を少量含む。炭化物を微量含む。35層は暗褐色土でやや硬めにしまり，ローム粒を多量に含む。36層は暗褐色土でやや硬めにしまり，ローム粒を多量に含む。37層は暗褐色土で硬くしまっている。38層は黒褐色土でやや硬めにしまっている。39層は暗褐色土でやや硬めにしまっており，ローム粒を少量含む。40層は黒褐色土でしまりを欠き軟質である。ローム粒を少量含む。41層は黒褐色土で硬くしまり，ローム粒を多量に含む。42層は黒褐色土で硬くしまり，ローム粒を多量に含む。黒色土を少量含む。43層は暗褐色土で硬くしまり，ローム粒を多量に含む。44層は黒色土で旧表土である。45層は黒褐色土でローム粒を少量含む。46層は暗褐色土でローム粒を多量に含む。

第1トレンチから第5トレンチにおける調査結果から馬土手の北側及び南側には並行して野馬堀が存在していることが確認された。北側の堀は南側の堀よりもやや広めである。いずれの堀の中にもピット状の





第5トレンチ　馬土手セクション

1	黒褐色土	表土（耕作土）
2	暗褐色土	しまりなく3層間、ローム粒を少量含む。
3	黒褐色土	やや硬めにしまり、ローム粒を多量に含む。
4	暗褐色土	やや硬めにしまり、ローム粒を多量に含む。
5	黒褐色土	やや硬めにしまり、ローム粒を多量に含む。
6	黒褐色土	しまりなく3層間、ロームブロックを少量に含む。
7	黒褐色土	軟くしまり、黒色土ブロック・ローム粒を少量に含む。
8	褐色土	軟くしまり、ローム層で黒褐色土を少量含む。
9	黒褐色土	しまりなく3層間、ローム粒を多量に含む。
10	褐色土	軟くしまり、ローム主体で黒褐色土および暗褐色土ブロックを少量含む。
11	黒褐色土	しまりなく3層間、ローム粒を少量含む。
12	褐色土	軟くしまり、黒色土ブロック・ロームブロックを多量に含む。
13	黒褐色土	やや明るい色調で、軟くしまり、ローム粒を多量に含む。
14	暗褐色土	軟くしまり、ローム粒を多量に含む。黒色土を少量含む。
15	黒褐色土	やや明るい色調で、軟くしまり、ローム粒を多量に含む。黒色土を少量含む。
16	黒褐色土	軟くしまり、ローム粒を多量に含む。
17	黒褐色土	やや明るい色調で、しまりなく3層間。
18	黒色土	しまりなく3層間。
19	黒褐色土	しまりなく3層間。
20	黒色土	軟くしまり、ローム粒を多量に含む。炭化物を微量含む。
21	黒褐色土	軟くしまり、ローム粒・ロームブロックを多量に含む。
22	暗褐色土	軟くしまり、ローム粒を多量に含む。炭化物を少量含む。
23	黒色土	軟くしまり、ローム粒を多量に含む。ロームブロックを少量含む。
24	黒褐色土	軟くしまり、ローム粒を少量に含む。
25	黒褐色土	軟くしまり、ローム粒を多量に含む。
26	黒褐色土	やや硬めにしまっている。
27	黒褐色土	軟くしまり、ローム粒を多量に含む。
28	黒褐色土	やや硬めにしまり、ローム粒を少量含む。
29	暗色土	しまりなく3層間。ローム粒を少内部硬度含む。
30	黒褐色土	軟くしまり、ローム粒を少量含む。
31	黒褐色土	やや明るい色調で、やや硬くしまり、ローム粒を多量に含む。
32	褐色土	やや硬めにしまり、ローム主体で三角形土を少量含む。
33	黒褐色土	軟くしまり、ローム粒を少量含む。
34	黒褐色土	やや硬めにしまり、ローム粒を少量含む。炭化物を微量含む。
35	暗褐色土	やや硬めにしまり、ローム粒を多量に含む。
36	暗褐色土	やや硬めにしまり、ローム粒を多量に含む。
37	暗褐色土	軟くしまっている。
38	黒褐色土	やや硬めにしまっている。
39	暗褐色土	やや硬めにしまり、ローム粒を少量含む。
40	灰褐色土	しまりなく3層間、ローム粒を少量含む。
41	三角色土	軟くしまり、ローム粒を多量に含む。
42	黒褐色土	軟くしまり、ローム粒を多量に含む。黒色土を少量含む。
43	暗褐色土	軟くしまり、ローム粒を多量に含む。
44	褐色土	粘着土
45	黒褐色土	ローム粒を少量含む。
46	暗褐色土	ローム粒を多量に含む。

第7図　大里馬土手第5トレンチ

痕跡が確認されたことから柵列の存在が考えられる。ただ，馬土手北側野馬堀のピット状の痕跡は比較的規模が小さく不規則であることから，この柵列については部分的な構造である可能性も考えられる。

第2節　柳谷遺跡の調査

1　調査区及び発掘区の設定

柳谷遺跡は芝山町大里字次木57－14ほかに所在する。当初，整備貨物地区南側貨物取扱施設エリアの進入路建設工事及び入退場ゲート設置工事に伴い，大里馬土手の北側で旧296号線とに挟まれた三角形の用地内1,520㎡の発掘調査が行われた。その後馬土手南側の8,700㎡部分が追加され，引き続き発掘調査が実施された。柳谷遺跡と大里馬土手は個別事業として調査委託されたが，調査の便宜上両事業地に共通する調査区を設定し，それぞれについて発掘調査を実施した。

柳谷遺跡の調査区の設定は，公共座標を基準として50m×50mの方眼グリッドを設定し，北から1，2，3，…，西からA，B，C，…とし，1A，2B，3C，…と呼称した。また，各方眼グリッド内を北西端から南東端にかけて先頭の00グリッドを第1段第1列とし10列ごとに次段の西端に移り，00～99の10段10列

100分割小グリッドを設定し，遺構の検出や遺物の取り上げの際の基準とした。柳谷遺跡の調査区の設定は，大里馬土手と共有したものを使用した。

2　調査の概要

柳谷遺跡は，旧296号線より南の台地に位置し，大里馬土手はこの遺跡の北端付近を東西に横断している。柳谷遺跡の調査は，平成15年４月７日から６月13日まで確認調査を実施した。対象面積10,220㎡のうち10%に相当する1,022㎡の上層確認調査と４%に相当する408㎡の下層確認調査を実施した。上層の確認調査は幅２ｍのトレンチを事業用地範囲に対応して配置し，下層の確認調査では２ｍ×２ｍの確認調査発掘区を設定して武蔵野ローム層上面までの遺物の有無を確認した。その後，確認調査の結果をもとに2,500㎡について上層本調査を平成15年８月29日まで実施した。調査の結果，縄文時代の炉跡２基・土坑４基，古墳時代の竪穴住居１軒・方形周溝状遺構２基，近世の猪落とし５基が検出された。

3　遺構

炉穴及び土坑（第８図・第９図）

１号炉穴

１号炉穴は柳谷遺跡南端の台地の縁に位置し，規模は長軸1.4ｍ×短軸1.1ｍ，深さ0.2ｍの楕円形を呈する。覆土はほぼ水平な皿状堆積で，長軸の方位は東西方向である。焼土は本遺構の西端に集中して検出された。１号炉穴からは遺物は検出されていない。

２号炉穴

２号炉穴は柳谷遺跡南端の台地の縁に位置し，１号炉穴から西北方向に３ｍほどの距離にある。規模は長軸1.3ｍ×短軸0.9ｍ，深さ0.3ｍの楕円形を呈する。覆土はほぼ水平な皿状堆積で，長軸の方位は南北方向である。焼土は本遺構の南端に集中して検出された。２号炉穴からは遺物は検出されていない。

１号土坑

１号土坑は柳谷遺跡の本調査範囲西端に位置し，規模は長軸2.8ｍ×短軸1.4ｍである。長軸の方位は東西方向の長楕円形を呈する。覆土は東に傾斜する堆積状況で，検出された遺物はない。

２号土坑

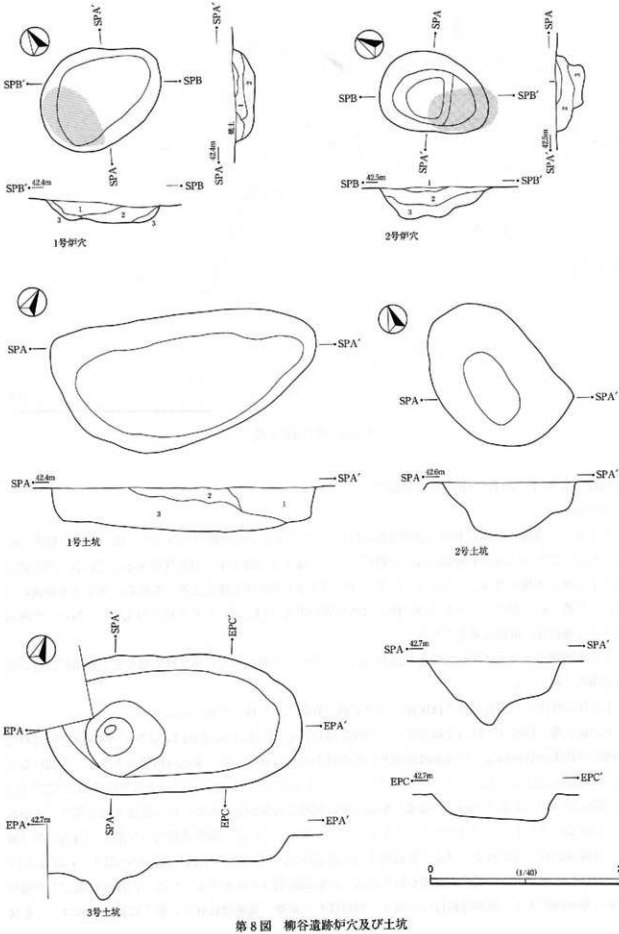
２号土坑は柳谷遺跡の本調査範囲のほぼ中央に位置し，規模は長軸1.7ｍ×1.1ｍ，深さ0.6ｍの楕円形を呈する。長軸の方位は南北方向であり，本遺構から検出された遺物はない。なお，覆土の状況は単一土壌による単純埋没の状況を呈する。

３号土坑

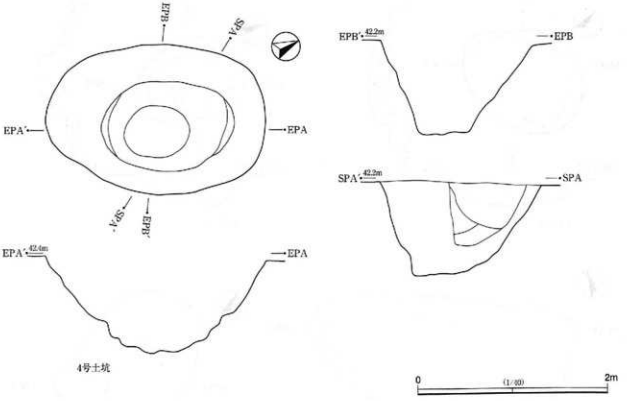
３号土坑は柳谷遺跡の本調査範囲東端に位置し，規模は長軸2.7ｍ×1.5ｍ，深さ0.7ｍの楕円形を呈する。長軸の方位は東西方向であり，本遺構から検出された遺物はない。なお，本遺構西端の一部は既に削平されていたため，掘り込み面（上端）及び底面（下端）の一部については不明である。

４号土坑

４号土坑は柳谷遺跡の北部，大里馬土手に近いところで確認された。規模は長軸2.3ｍ×1.6ｍ，深さ1.0ｍの楕円形を呈する。長軸の方位はほぼ東西方向であり，本遺構から検出された遺物はない。本遺構は他の土坑と比べてすり鉢状でやや深い特徴が見られる。



第 8 図　柳谷遺跡炉穴及び土坑



第９図　柳谷遺跡土坑

住居跡（第10図・第11図・第12図・第13図）

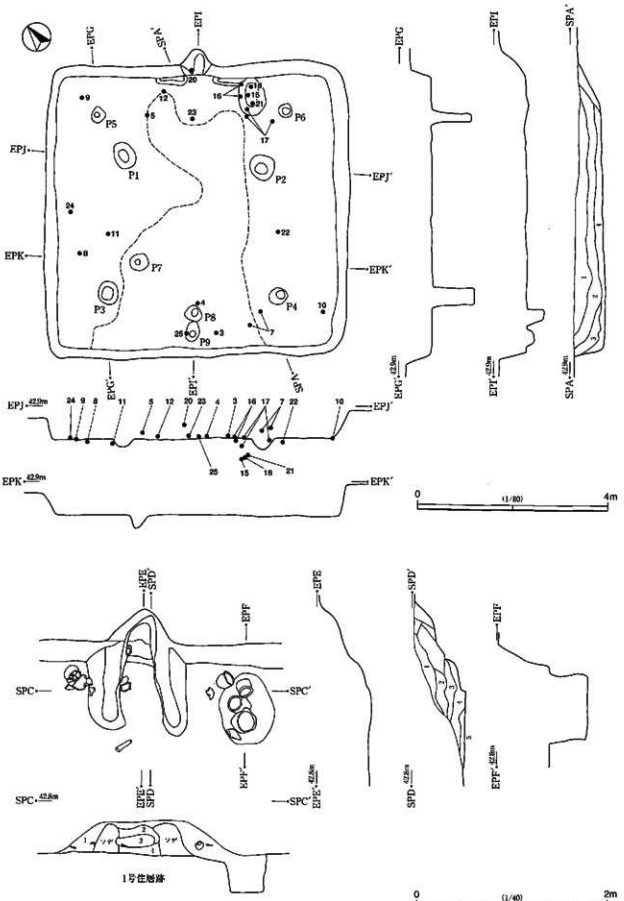
１号住居跡

１号住居跡は柳谷遺跡の本調査範囲東端に位置し，カマドを含む主軸の方位はＮ－45°－Ｅで，規模は6.2ｍ×6.4ｍ，深さ約0.6ｍで平面形はほぼ方形を呈する。覆土はほぼ水平な自然堆積を示している。柱穴状のピットは９か所検出され，このうちP1，P2，P3，P4の４か所は主柱穴と考えられる。カマドと対面の壁付近に位置する２か所のピット（P8，P9）は本住居の出入り口に設けられた梯子の支え穴，他の３か所のピットは補助柱の痕跡と考えられる。

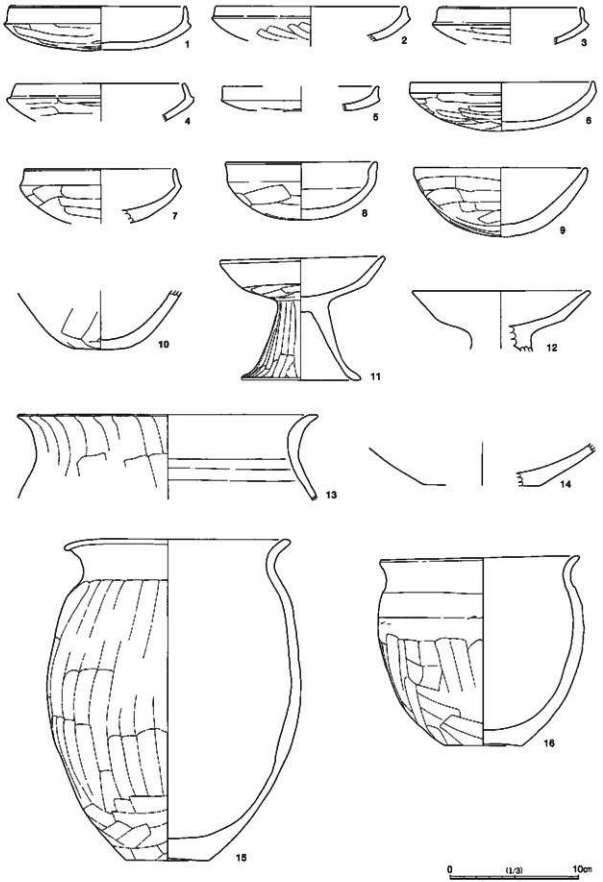
１号住居跡のカマドは比較的遺存状態が良好で，カマドの袖部や天井部，煙道部などが使用時に近い状態で検出されている。

１号住居跡出土の遺物の多くは床面とカマド脇の貯蔵穴から検出されている。

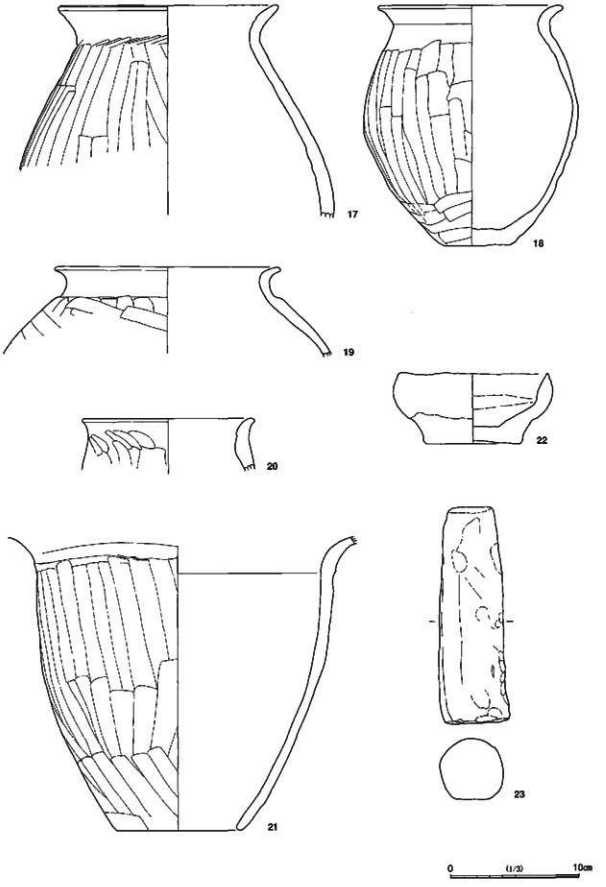
１は住居跡一括取り上げの土師器坏で，口縁部径13.3cm，器高3.4cm，口縁部高1.3cm。口縁部と胴部の境は明瞭な稜線が見られる。口縁部は胴部との境の稜からほぼ直立する。胴部外面はヘラ削り，内部はなで調整。焼成は良好で胎土にはスコリア・砂粒を含む。２も住居跡一括取り上げの土師器坏で，口縁部径14.9cm，器高2.7cm，口縁部高1.0cm。口縁部と胴部の境は明瞭な稜線が見られる。口唇部は丸味を帯び厚みがある。口縁部の立ち上がりはほぼ直立するが短いつくりとなっている。胴部外面はヘラ削り，内面はなで調整。焼成は良好。３は梯子穴付近の床面出土の土師器坏で，口縁部径11.3cm，器高2.9cm以上，口縁部高1.2cm。口縁部と胴部の境は明瞭な稜線が見られる。口唇部終端は丸味を帯びている。口縁部は胴部との境の稜からやや内傾する。胴部外面はヘラ削り，内面はなで調整。焼成は良好で，胎土に石英・スコリアを含



第10図　柳谷遺跡 1 号住居跡



第11図　柳谷遺跡１号住居跡出土遺物（１）



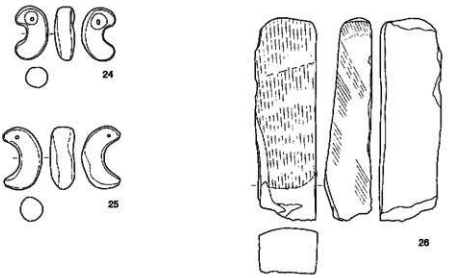
第12図　柳谷遺跡１号住居跡出土遺物（２）

む。4も梯子穴付近の床面出土の土師器坏で，口縁部径13.2cm，器高3.0cm以上，口縁部高1.2cm。口縁部と胴部の境は明瞭な稜が見られる。口縁部の立ち上がりは胴部との境の稜から内傾する。胴部外面はヘラ削り，内面はなで調整。焼成は良好。5はカマド付近出土の土師器坏で，口縁部径12.2cm（推定），器高2.0cm以上，口縁部高1.1cm。口縁部と胴部の境の稜はあまり明瞭ではない。口縁部の立ち上がりは胴部との境からほぼ直立する。6はカマド付近の床面出土の土師器坏で，口縁部径14.4cm（推定），器高3.9cm（推定），口縁部高0.8cm。口縁部と胴部の境の稜はあまり明瞭ではない。口縁部の立ち上がりは胴部との境から短くつまみ上げられた程度である。口唇部先端は丸味を帯びている。胴部外面はヘラ削り，内面はなで調整。焼成は良好で，石英・スコリアを含む。7はカマド脇の貯蔵穴周辺出土の土師器坏で，口縁部径12.0cm，器高4.3cm以上，口縁部高1.3cm。口縁部と胴部の境の稜はあまり明瞭ではない。口縁部の立ち上がりは胴部との境から内傾する。胴部外面はヘラ削り，内面はなで調整。焼成は良好で，石英・スコリアを含む。8は住居西壁付近の床面出土の土師器坏で，口縁部径11.9cm，器高4.6cm，口縁部高1.5cm。口縁部と胴部の境の稜は見られない。口縁部の立ち上がりは胴部との境からほぼ直立するが，口唇部はやや外側につままれている。胴部外面はヘラ削り，内面はなで調整。焼成は良好。9は住居跡一括取り上げの土師器坏で口縁部径13.6cm，器高5.4cm。口縁部と胴部の境の稜は見られない。口縁部は胴部から自然に伸びた延長にあり，口唇部は厚みがあり丸味を帯びている。胴部外面はヘラ削り，内面はなで調整。胎土には石英・スコリア・砂粒のほか大粒の粘土粒を含む。10は住居南東コーナー付近の床面出土の土師器坏で，口縁部付近を欠損している。胴部外面はヘラ削り，内面はなで調整。

11は住居西壁付近の床面出土の土師器高坏で，口縁部径12.9cm，器高9.7cm，坏部高3.5cm，脚部高6.2cm，脚開口部径9.4cm。外面は坏部下半から脚部にかけてヘラ削り，坏部内面はなで調整。焼成は良好。

12はカマド裾部脇の床面出土の高坏の坏部。口縁部径14.0cm，坏部高3.5cm。

13は住居跡一括取り上げの甕の口縁部で，口縁部径23.4cm。口縁部外面の口唇部付近まで縦位のヘラ削りが見られる。口唇部まで縦位のヘラケズリが施されている。14も住居跡一括取り上げの土師器甕の底部で，底部径9.1cm（推定）。15はカマド脇の貯蔵穴内から検出された土師器甕で，口縁部径17.1cm，胴部最大径19.8cm，器高25.2cm，底部径6.5cm。胴部外面は縦位ヘラ削りで，底部付近は横位のヘラ削り，内面はなで調整。胎土に石英・スコリアを含む。16は貯蔵穴周辺の床面出土の土師器小型甕で，口縁部径15.6cm，胴部最大径16.1cm，器高14.8cm，底部径6.0cm。胴部外面は下半部が縦位のヘラ削りで，内面はなで調整。胴上半部には輪積みの痕跡を残している。焼成は良好で，胎土に石英・長石を含む。17は住居跡一括取り上げの土師器甕で，口縁部径17.3cm，胴部最大径24.0cm。胴部外面は縦位のヘラ削りで，内面はなで調整。胴下半部に最大径をもつ形状の甕である。焼成は良好で，胎土に石英・長石を含む。18は貯蔵穴内出土の土師器甕で，口縁部径14.6cm，胴部最大径16.8cm，器高19.0cm，底部径5.1cm。胴部外面は縦位のヘラ削りで，底部付近は横位のヘラ削り。内面はなで調整。焼成は良好で，長石・スコリア・砂粒を含む。19は住居跡一括取り上げの土師器甕で，口縁部径17.6cm。口縁部は立ち上がりが短く，胴部との境から『く』の字状に外反する。20はカマドの煙道付近から出土した土師器小型甕の口縁部で，口縁部径13.5cm。口縁部は胴部からそのまま立ち上がって収束する。出土位置から見てカマドの煙道部の構築材料として再利用されたものと考えられる。焼成は良好で，長石・粘土粒を含む。21は貯蔵穴内出土の土師器甑で，口縁部径26.6cm以上，器高23.0cm以上，底部開口部径9.6cm。胴部外面は縦位のヘラ削り，内面は丁寧ななで調整。口唇部を欠損している。焼成は良好。22は土師器の手捏土器で，主柱穴P2とP4の中間付近の床面出土。口縁部



第13図　柳谷遺跡１号住居跡出土遺物（３）　0　(1/2)　5cm

径11.7cm，器高5.5cm，底部径7.5cm。胴部は太い粘土紐を重ねたままで器壁は厚く，輪積みの痕跡を明瞭に残している。23は円柱形の土製支脚で，長さ17.0cm。最大径5.1cm。焼成は良好で丁寧なつくりである。カマドの焚き口付近の床面から出土している。24は住居西壁付近の床面出土の滑石製勾玉で長さ28.1mm，幅16.7mm，厚さ10.2mm，重さ6.65ｇ。穿孔部は両面から浅く大きめの抉りが見られる。25も住居梯子穴（P9）付近の床面出土の滑石製の勾玉で，長さ32.7mm，幅20.2mm，厚さ12.7mm，重さ7.51ｇ。穿孔部の抉りは両面とも見られない。26は住居跡一括取り上げの凝灰岩製砥石で，長さ107.0mm，幅32.2mm，厚さ25.1mm，重さ109.72ｇ。明瞭な使用痕が見られ，使用による摩滅も著しい。

方形周溝状遺構（第14図）

１号方形周溝状遺構

１号方形周溝状遺構は，柳谷遺跡本調査範囲のほぼ中央に位置する。規模は一辺約7.2ｍの方形で，周溝の幅は0.8ｍ～1.0ｍ，深さは平均で0.3ｍほどで周溝の底は平坦である。埋葬施設等付帯する関連遺構及び遺物は検出されていない。

２号方形周溝状遺構

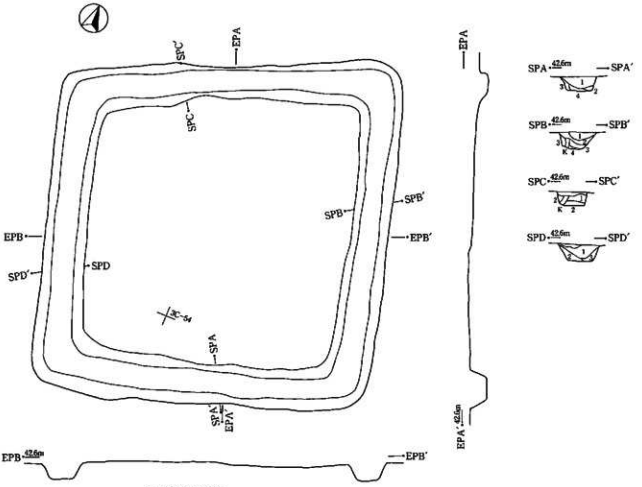
２号方形周溝状遺構は，柳谷遺跡本調査範囲の西北端に位置する。規模は一辺6.0ｍ前後と推定されるが，周溝は南西コーナー付近と北側の一辺を欠いており，北に向かって『コ』の字状に開いている。
付帯する関連遺構及び遺物は検出されていない。

その他の遺構

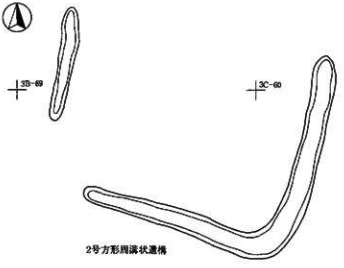
猪落とし遺構（第15図・第16図）

１号猪落としから５号猪落としは，共通した構造となっている。陥穴状の土坑の開口部は幅の狭い楕円形を呈し，底部は幅の狭い溝状のつくりとなっている。断面は『Ｖ』字状または『Ｙ』字状になっている。

１号猪落としから５号猪落としの土層観察結果は共通のものである。１層は黒色土で耕作土の流入土層。２層は暗褐色土で粒子は細かく，やや粘性がある。３層は２層と似た暗褐色土層であるが，ロームブロッ



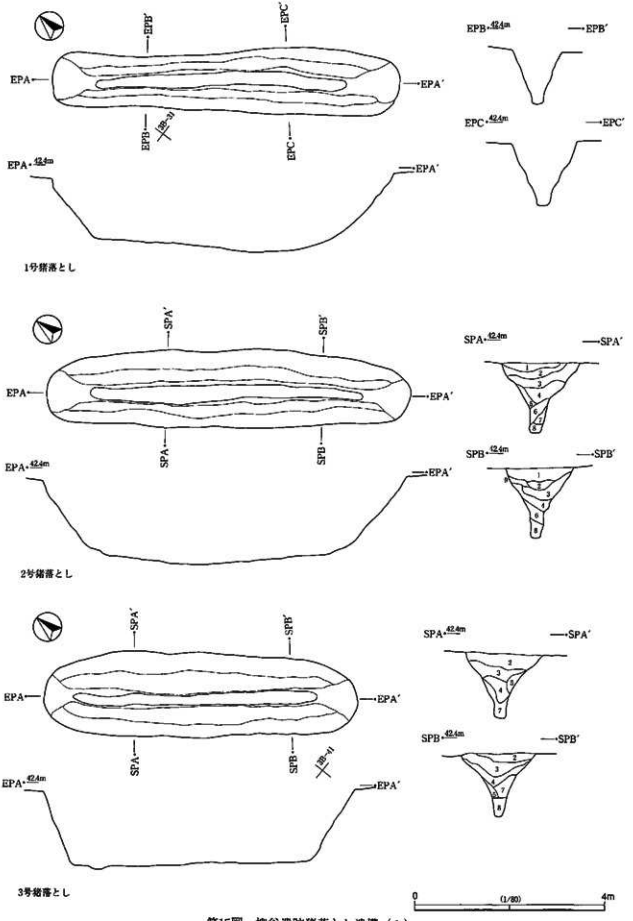
1号方形周溝状遺構



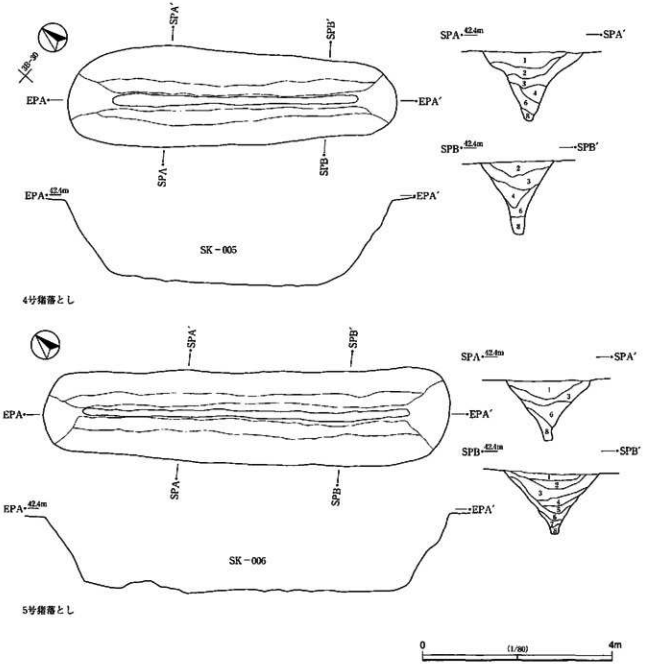
2号方形周溝状遺構

0 (1/80) 4m

第14図　柳谷遺跡方形周溝状遺構



第15図　柳谷遺跡猪落とし遺構（1）



第16図　柳谷遺跡猪落とし遺構（2）

クを含む。4層は2層・3層と似た暗褐色土層であるが，やや大粒のロームブロックを含む。5層は黄褐色土層で，ソフトローム及びハードロームの流入土層。6層はハードロームブロックを主体とする黄褐色土層。7層は粒子の細かい暗褐色土を主体としてローム粒を多量に含む。8層は7層よりもやや暗い色調の暗褐色土層。9層は黄褐色土層でソフトロームの流入土層。

1号猪落とし

1号猪落としは長さ7.4m，幅1.4m，深さ1.4m。断面は『V』字状である。

2号猪落とし

2号猪落としは長さ7.8m，幅1.6m，深さ1.4m。断面は『Y』字状である。

3号猪落とし

3号猪落としは長さ6.6m，幅1.8m，深さ1.4m。断面は『Y』字状である。

4号猪落とし

4号猪落としは長さ7.0m，幅2.2m，深さ1.6m。断面は『V』字状である。

5号猪落とし

5号猪落としは長さ8.6m，幅1.4m，深さ1.3m。断面は『V』字状である。

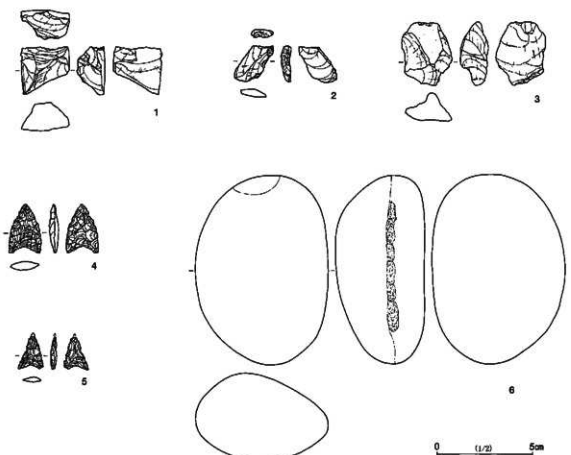
1号猪落としから5号猪落としは，調査の結果いずれからも検出された遺物はない。

猪落とし遺構は，大里馬土手の西端南側に位置する。馬土手が西側の谷津に下り始める台地の肩口にきわめて近接して構築されており，本来放牧馬にとって猪等の有害な動物が谷津から牧へ進入することを阻止するためのものでると考えられている。馬土手と猪落とし遺構の位置関係を観察すると，牧の外側の耕作地側に猪落とし遺構が構築されており，柳谷遺跡では谷津に通じる獣道に対応して猪落とし遺構を設置し耕作地への猪等の進入を防ぐためのものであった可能性が高い。

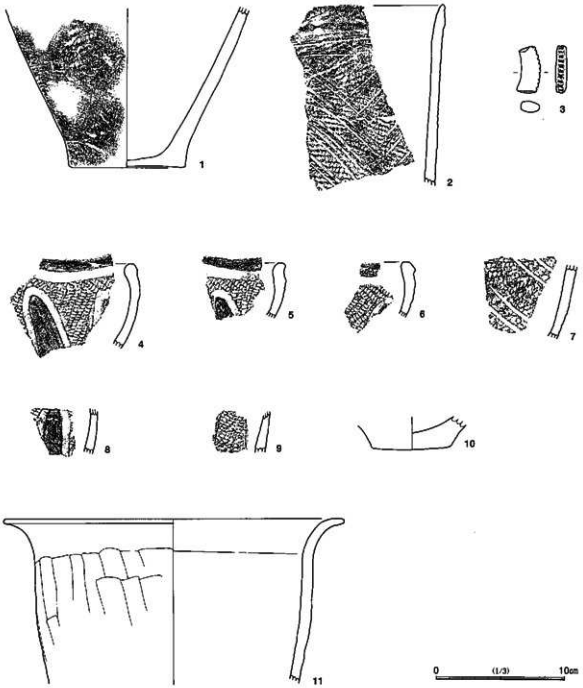
4　その他の出土遺物（第17図・第18図・第19図）

遺構外から出土した遺物はいずれも柳谷遺跡出土である。

第17図1は安山岩の薄片で，長さ24.8mm，幅25.0mm，厚さ15.0mm，重さ8.68g。2は黒曜石のリタッチドフレイクで，長さ18.6mm，幅19.5mm，厚さ4.9mm，重さ1.38g。1及び2は出土層位が高く，縄文時代の遺物



第17図　柳谷遺跡出土遺物（石器）



第18図　柳谷遺跡出土遺物（土器）

第19図　柳谷遺跡出土遺物（銭貨）

である可能性が強い。3は凝灰岩の薄片で，長さ32.8mm，幅26.4mm，厚さ16.2mm，重さ11.15g。4は黒曜石製の無茎石鏃で，長さ25.6mm，幅16.7mm，厚さ4.8mm，重さ1.54g。5はチャート製の無茎石鏃で，長さ17.4mm，幅12.8mm，厚さ2.9mm，重さ0.48g。6は凝灰岩製の敲き石で，長さ99.4mm，幅69.6mm，厚さ46.4mm，重さ447.67g。側面に敲きの痕跡が見られる。

第18図1は縄文土器の底部。2・7・9は縄文時代後期加曽利B式土器の口縁部付近。4～6・8は粗い縄文を地紋とする縄文時代中期の加曽利E式土器。10は縄文土器の底部。3は縄文土器の把手。11は土師器の甑で，口縁部径16.6cm，焼成は良好で胎土には長石・スコリア・砂粒を含む。胴部は縦位のヘラ削りが見られる。

第19図1は寛永通宝。縁外径26mm，縁内径21mm，郭外径8mm，郭内径6mm。裏面は無文。2は寛永通宝。縁外径26mm，縁内径21mm，郭外径9mm，郭内径6mm。裏面は無文。3は文久永宝。ほぼ1/2を欠損してるため縁外径，縁内径，郭外径，郭内径の計測はできない。裏面には青海波文が見られる。

註1　西口徹　平成15年『主要地方道成田松尾線XVI　－芝山町大里所在馬土手・宝馬遺跡93－77地点－』千葉県文化財センター調査報告第455集（財）千葉県文化財センター

第3章　まとめ

大里馬土手及び柳谷遺跡は，縄文時代から近世にかけての遺構や遺物が検出された。調査の結果縄文時代では炉穴や土坑，古墳時代から奈良・平安時代では竪穴住居跡及び方形周溝状遺構，近世では馬土手についてその概要が明らかとなった。

縄文時代の炉穴や土坑は遺構内から遺物が検出されていないので，時期を特定することはできないが，空港周辺の他の遺跡[1]や，その立地を考慮すれば早期のものと考えられる。

古墳時代の竪穴住居跡は，住居跡の形態や住居跡から出土した遺物の観察の結果，後期鬼高期のものであることが判明した。

方形周溝状遺構は，埋葬施設等の遺構が検出されていないので時期は特定できないが，古墳時代から奈良・平安時代にかけての時期のものと考えられる。

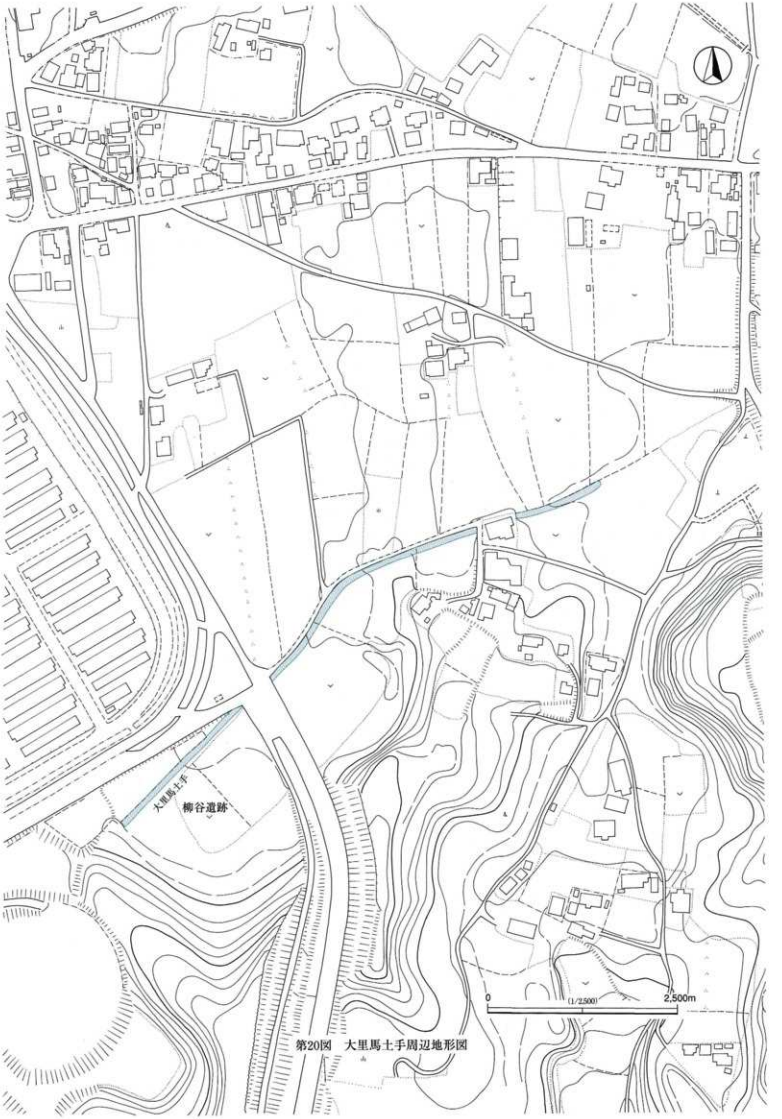
馬土手については，今回調査された部分は昭和60年度に調査された柳谷遺跡[2]及び平成14年度に調査された大里所在馬土手[3]の延長上にあり，一連のものである。

成田国際空港周辺では，近世の牧に関わる地名・遺構が随所に見られる。

下総台地における牧の歴史は古く，延喜式兵部省の諸国牧に記載が見られ，このうち高津馬牧と大結馬牧が房総半島北部に関わりの強いものと考えられている[4]。江戸時代には幕府により軍馬・農耕馬の育成を目的として，下総小金牧・佐倉牧・安房嶺岡牧が直轄の牧として展開された。このうち成田国際空港周辺に関わるのは佐倉牧で，油田牧・矢作牧・取香牧・内野牧・高野牧・柳沢牧・小間子牧の七牧に区分されていることから佐倉七牧とも呼ばれている。

今回調査された大里馬土手は，佐倉牧に属する取香牧に関わるものと考えられ，旧菱田村から旧坂志岡村にかけて野馬が耕作地に踏み込むことを防止するために築かれた取香牧の南の外郭となる馬土手の一部と思われる。牧には通常捕馬施設が設置されている。捕込（とっこめ）と呼ばれる野馬を捕らえ区分けを行った施設や溜込（ためこめ）と呼ばれる軍事・農馬・役馬など使用目的によって野馬を選別し溜置く施設や若い野馬などを牧に帰す払込（はらいこめ）である。江戸時代（享保期）には幕府により野馬奉行縞貫夏右衛門が小間子牧・取香牧・矢作牧・油田牧の四牧方に任ぜられ，酒々井の島田長右衛門方に野馬会所を設け四牧方牧士が牧の管理にあたった。牧では牧士を中心に，勢子と呼ばれる近隣農民を動員した野馬追い込みが年に１度行われ，近隣の村々から多くの見物客が訪れたとされている[5]。

捕馬施設は各牧に数か所設置され，取香牧に比定される現在地内では古込（２か所），大清水，五十石の４か所に捕馬施設が存在していたとされている[6]。空港予定地№22（古込込前遺跡）に痕跡を残していた捕込については，「古込」地区に該当するものではなく，「木ノ根」地区に該当する捕馬施設である可能性が高い。江戸時代に作られた取香牧麁絵図[7]によれば，「五十石」地区の捕込が明記されているにもかかわらず，「古込」地区の捕込については記載がない。したがって，取香牧「古込」地区に捕込が２か所設置されていたかについては確証がない。また,矢作牧麁絵図[8]によれば，「古込」地区（№14・№55・№56古込遺跡）付近に捕込の記載がある。このことから「古込」地区の捕込は取香牧のものではなく，隣接する矢作牧のものである可能性が高い。さらに，明治時代に作成された取香牧の図[9]によれば，取香牧の三里塚區



第20図　大里馬土手周辺地形図

（現在の大清水付近）と長原區（現在の五十石付近）と木ノ根區に捕込の記載があり，木ノ根區の捕込の場合は『新捕込』の添え書きが付けられている。したがって，取香牧の捕馬施設としては「長原」地区の捕込が最初に設置され，その後「三里塚」地区及び「木ノ根」地区の捕込が追加されたと考えるのが妥当である。

註1　宮重行他　昭和56年『木の根』（財）千葉県文化財センター

2　伊藤智樹他　昭和61年『主要地方道成田松尾線Ⅳ　小池元高田遺跡　柳谷遺跡　上宿遺跡　井森戸遺跡』（財）千葉県文化財センター

3　西口徹他　平成15年『主要地方道成田松尾線Ⅵ－芝山町大里所在馬土手・宝馬遺跡93－77地点－』（財）千葉県文化財センター

4　大結馬牧は現在の船橋市周辺地域とされるが，高津馬牧については多古町高津原付近や八千代市高津付近とする説など諸説あり特定できていない。また，伊勢斎宮祭の宮売祭及び大祓で使用される馬が下総国から供出されていたことが知られており，成田ニュータウン開護台第12号遺跡の13号住居跡から出土した鉄製鐙は当時の山方駅の駅伝馬として使用された駅馬に関わるものと考えられている。

5　江戸時代『野馬を追い込む図』成田市立成田図書館蔵

6　西野　元他1971『三里塚　新東京国際空港用地内の考古学的調査』（財）千葉県北総公社

№22遺跡（香取牧の馬捕込地）において捕馬施設遺構を実測調査をしているが，本文中のまとめでは（…捕馬施設としては「込」地区のみが残り，他はほとんど形状不明となってしまった。…）とあるが，現代まで捕馬施設の土塁等を明瞭に残しているのは「古込」地区の捕馬施設であり，記述において「込」地区すなわち「木ノ根」地区と「古込」地区を混同している可能性がある。

7　江戸時代『取香牧麁絵図』野馬奉行綿貫家文書（千葉県立中央図書館蔵）

8　江戸時代『矢作牧麁絵図』野馬奉行綿貫家文書（千葉県立中央図書館蔵）

9　明治8年3月作成『取香牧の図』

明治8年内務省により取香牧の隣接地が羊毛の生産を目的とした下総牧羊場とされ，取香牧も牛馬の改良にあたる取香種畜場となった。

写　真　図　版

天理教本部
柳生遺跡

図版 2

2T (SW→NE)

3T (NE→SW)

4T (SW→NE)

10T（NW→SE）

11T（NW→SE）

柳谷遺跡調査前近景
（N→S）

図版 4

大里馬土手近景（W→E）

大里馬土手全景（E→W）

第1トレンチ
東側セクション（SW→NE）

第2トレンチ
東側セクション（NW→SE）

第2トレンチ
東側セクション（S→N）

第3トレンチ
東側セクション（W→E）

図版 6

第3トレンチ
北側野馬堀（NE→SW）

第3トレンチ
東側セクション（S→N）

第4トレンチ
東側セクション（NW→SE）

第4トレンチ
北側野馬堀（NE→SW）

第4トレンチ
東側セクション（SW→NE）

第5トレンチ
東側セクション（W→E）

図版 8

第５トレンチ
東側セクション（NW→SE）

１号炉穴

２号炉穴

１号土坑

３号土坑

４号土坑

1号住居跡（SW→NE）

1号住居跡カマド

図版10

1号方形周溝状遺構
(NW→SE)

2号方形周溝状遺構
(S→N)

1号～5号猪落とし遺構
(S→N)

柳谷遺跡１号住居跡出土遺物（１）

柳谷遺跡１号住居跡出土遺物（２）

柳谷遺跡１号住居跡出土遺物（３）

柳谷遺跡１号住居跡出土遺物（１）

包含層出土遺物（１）

包含層出土遺物（2）

報告書抄録

ふりがな	くうこうせいびかもつちくみなみがわかもつとりあつかいしせつまいぞうぶんかざいちょうさほうこくしょ
書名	空港整備貨物地区南側貨物取扱施設埋蔵文化財調査報告書Ⅰ
副書名	芝山町大里馬土手・芝山町柳谷遺跡
巻次	
シリーズ名	財団法人千葉県文化財センター調査報告
シリーズ番号	第501集
編著者名	石倉亮治
編集機関	財団法人　千葉県文化財センター
所在地	〒284－0003　千葉県四街道市鹿渡809番地２
発行年月日	西暦2005年３月24日

所収遺跡名（よりがな）	所在地（よりがな）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
大里馬土手（おおさとうまどて）	山武郡芝山町大里字柳谷32－1他（さんぶぐんしばやまちおおさと あざやなぎやつ）	409	039	35°44′33″	140°24′22″	20030407～20030430	1,400㎡	空港整備貨物地区南側貨物取扱施設工事に伴う事前調査
柳谷遺跡（やなぎやついせき）	山武郡芝山町大里字次木57－14他（さんぶぐんしばやまちおおさと あざ）	409	013	35°44′32″	140°24′22″	20030407～20030729	10,220㎡	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
大里馬土手	馬土手	近世	馬土手	縄文土器・石器	
柳谷遺跡	包蔵地	縄文時代 古墳時代 近世	土坑 住居跡 方形周溝状遺構 豬落とし遺構	縄文土器 土師器・須恵器	

千葉県文化財センター調査報告第501集

空港整備地区南側貨物取扱施設埋蔵文化財調査報告書Ⅰ

― 芝山町大里馬士手・柳谷遺跡 ―

平成17年3月24日発行

編　集　財団法人　千葉県文化財センター

発　行　成田国際空港株式会社
千葉県成田市木の根字神台24番地

財団法人　千葉県文化財センター
四街道市鹿渡809-2

印　刷　株式会社　正文社
千葉市中央区都町1-10-6